

大戸緑地希少生物調査

西部公園緑地事務所

工事課 野山北・六道山公園建設担当

岡 加奈子

1. 調査概要

1.1 調査期間

自 令和3年10月13日 ～ 至 令和4年11月30日

1.2 調査範囲

東京都町田市相原町地内ほか(大戸緑地)

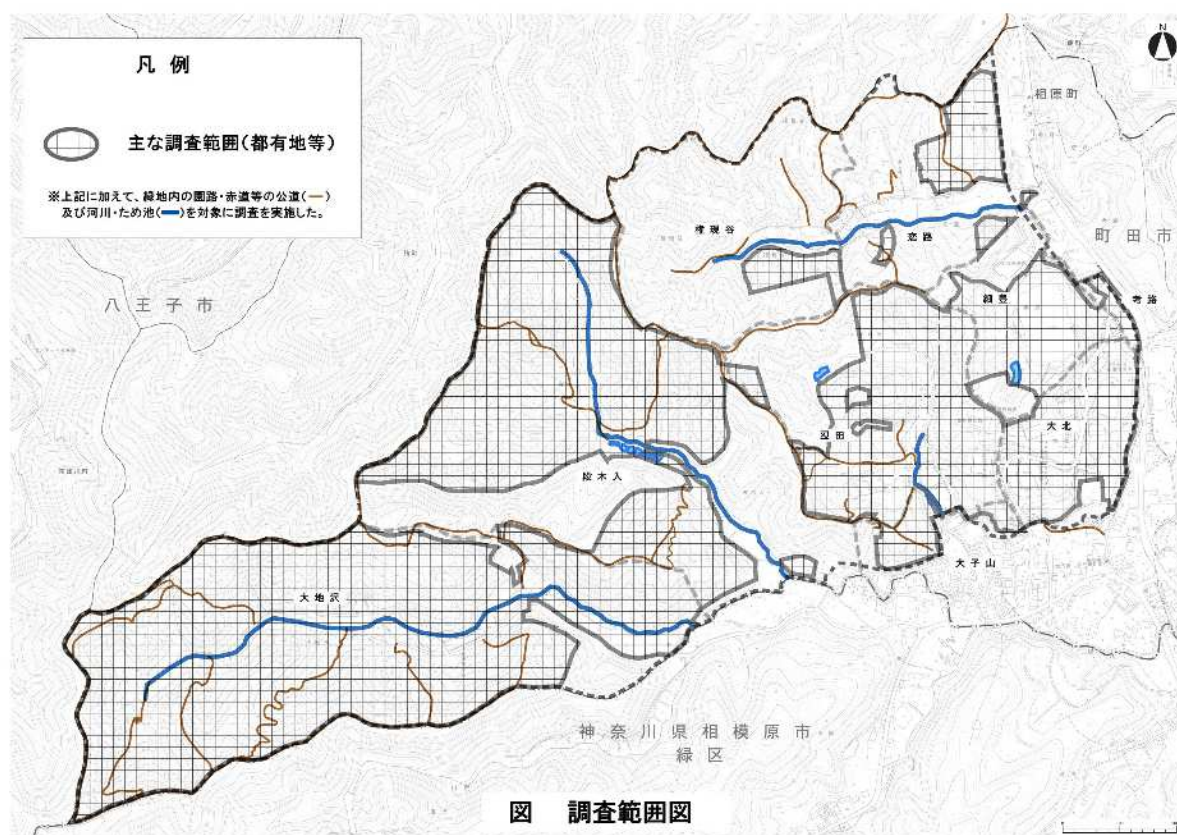


図 1-1 調査範囲図

1.3 調査の内容

大戸緑地の自然環境の保全と適切な公園整備や管理に資する情報を得るため、大戸緑地周辺に生息・生育する希少生物の生息・生育・繁殖状況についてモニタリングを行い、整備予定地について「自然環境保全計画(案)」を作成した。

(1) 植物調査

大戸緑地において植物相及び希少植物モニタリング調査を実施した。

「大戸緑地植生管理計画策定業務委託報告書」(平成 26 年)における希少植物一覧掲載種(70 種以上)及び既往調査において確認された希少植物を対象とした。

現地調査において希少植物及び特定外来生物(植物)を確認した場合は、確認地点及び生育状況を記録した。

【調査期間】 2 月～10 月

【調査頻度】 4 回(春季、初夏、夏季、秋季)

【調査範囲】 大戸緑地全域

(2) 哺乳類、両生類、爬虫類調査

1) 生息状況調査

大戸緑地に生息する哺乳類、両生類、爬虫類の生息状況の把握を目的として、大戸緑地の全域を任意踏査した。

【調査期間】 2 月～10 月

【調査頻度】 3 回(早春、春、夏季)、1 回あたり 2 日間以上で複数名にて実施

【調査範囲】 大戸緑地全域

2) 夜間調査

大戸緑地に生息する夜行性小動物(コウモリ類、ムササビ等)の生息状況の把握を目的として、夜間調査を実施した。

【調査期間】 4 月～7 月

【調査頻度】 3 回(1 回あたり 0.5 日程度)、1 回あたり 2 人で実施

【調査範囲】 大戸緑地全域

3) トラップ調査

大戸緑地に生息する小型哺乳類(アズマモグラ、ヒミズ、アカネズミ、ヒメネズミ等)の生息状況の把握を目的として、大戸緑地内にトラップを設置し捕獲調査を実施した。

【調査期間】 6 月

【調査頻度】 1 回(1 回あたり 2 人×3 日(2 晩設置))

【調査箇所】 3～4 箇所(1 箇所あたり 30 個程度)

【調査範囲】 大戸緑地全域

4) 無人撮影調査

大戸緑地に生息する小動物の生息状況の把握を目的として、大戸緑地内に 5 台程度の無人撮影機を設置し、公園内に生息する小動物の利用状況を把握した。

【調査期間】 2 月～10 月

【調査頻度】 3 回(生息状況調査と兼ねて実施)

【調査箇所】 5 箇所程度の設置

【調査範囲】 大戸緑地全域

(3) 鳥類調査

大戸緑地に生息する鳥類の生息状況を把握するために、スポットセンサス調査(10 分間)を実施した。また、地点間を移動する際などに確認した鳥類については、確認位置を記録し、公園全体の鳥類相の把握し、植生区分別の出現傾向について整理した。

【調査期間】 12 月～1 月、5 月～6 月

【調査頻度】 2 回(1 回あたり 1 日)越冬期、繁殖期

【調査箇所】 スポットセンサス地点数は 10 箇所(調査地点は植生区分別に設置する)

【調査範囲】 大戸緑地全域

(4) 昆虫類及びクモ類調査

1) 任意採集

大戸緑地に生息する昆虫類の生息状況の把握を目的として調査を実施した。

調査方法としては、ビーティング法、スウィーピング法を用いて昆虫相の把握に努めた。クモ類については任意採集を実施し、生息状況の把握に努めた。

【調査期間】 4 月～10 月

【調査頻度】 4 回(春・初夏・夏・秋)

【調査範囲】 大戸緑地全域

2) バイトトラップ調査

地表歩行性の昆虫類の生息状況を把握することを目的として実施した。

【調査期間】 5 月～9 月

【調査頻度】 2 回(初夏・秋)

【調査箇所】 トラップ数は 6 箇所程度(調査地点は代表的な植生区分別に設置する)

【調査範囲】 大戸緑地全域

3) ライトトラップ調査

夜間、灯火に飛来する性質を持つ昆虫類を対象として蛍光灯やブラックライト(紫外線灯)で昆虫類を誘引した。調査ではボックス式を用いた。

【調査期間】 5 月～9 月

【調査頻度】 2 回(初夏・秋)

【調査箇所】 トラップ数は 6 箇所程度(調査地点は代表的な植生区分別に設置する)

【調査範囲】 大戸緑地全域

5) ムカシヤンマ生息状況調査

指定管理者により生息が確認された希少種ムカシヤンマの生息状況を明らかにするため、モニタリング調査を実施した。調査は成虫が羽化している時期を見定めて任意踏査により個体数の把握に努めた。また、幼虫が生息している可能性のある場所についても任意に踏査し、可能な限り幼虫を確認するものとした。

【調査期間】 5月～7月

【調査頻度】 3回(各月1回)

【調査箇所】 1回あたり2人で実施

【調査範囲】 段木入広場の水路付近

(5) 陸産貝類調査

大戸緑地に生息する陸産貝類の生息状況を把握するために、任意採集調査を実施した。調査は、公園全体を踏査し確認位置を記録し、整理した。

【調査期間】 5月～10月

【調査頻度】 2回 夏季、秋季

【調査範囲】 大戸緑地全域

(6) 水生生物調査

大戸緑地に存在する河川とため池を対象として、生息している水生生物について定性調査を実施した。調査対象は魚類・底生生物とした。

【調査期間】 1月～10月

【調査頻度】 3回

【調査範囲】 対象河川(4ヶ所)、ため池(4ヶ所)

2. 調査結果

大戸緑地は町田市の西端に位置し、東京都と神奈川県の間をなす境川流域にあたる。丘陵地に接する山地であり、山地と丘陵地の要素をもつことが特徴である。地形は急峻で尾根部と谷底部にあるわずかな平坦地を除いては殆どが急傾斜地となっている。

植生は古くは薪炭林や植林として利用されてきたことから代償植生が広がっている。コナラを主体とした落葉広葉樹林が最も優占し、集落近くの山地斜面や尾根を中心に分布している。次いでスギ・ヒノキ植林が集落から離れた谷沿いや谷戸奥を中心に広く分布している。この他、尾根部にはスダジイやモミ等の常緑高木が点在もしくはまとまって分布している。林床植生はアオキが優占するアオキ型、ヒサカキやアラカシ、スダジイ、ヤブツバキ等の常緑樹が優占する常緑低木型(アオキ以外)、ヤブムラサキやムラサキシキブ、ヤマツツジ等の落葉樹が優占する落葉低木型、アズマネザサが優占するササ型などが分布している。また、谷底部の平野には草地や田畑、果樹園などが分布している。

このような環境下において、これまでに植物は 152 科 1081 種、哺乳類は 11 科 22 種、鳥類は 30 科 69 種、爬虫類は 5 科 9 種、両生類は 5 科 11 種、昆虫類・クモ類は 311 科 1774 種、陸産貝類は 9 科 22 種、魚類は 5 科 9 種、底生動物は 73 科 178 種確認されている。

表 2-1 確認総数

		総数	今回	備考(実施年)
植 物		1081種	785種	H22,H24～H27,H30,H31,R03・04
動 物	哺乳類	22種	17種	H22,H31,R03・04
	鳥 類	69種	53種	H22,H27～H31,R03・04
	爬虫類	9種	5種	H22,H31,R03・04
	両生類	11種	7種	H22,H30,H31,R03・04
	昆虫類・クモ類	1774種	1118種	H22,R03・04
	陸産貝類	22種	22種	R03・04
	魚 類	9種	8種	H22,R03・04
	底生動物	178種	178種	R03・04
合 計		3175種	2193種	—

注1: 鳥類調査の内、H27～H31実施分は猛禽類やミゾゴイ等の特定種のみを対象とした調査。

注2: 両生類調査の内、H30実施分はタゴガエルのみを対象とした調査。

注3: 表中には記していないが、H29に哺乳類、H30に魚類の任意記録あり。

2.1 植 物

(1) 確認状況

今年度調査では合計 785 種の植物が確認された。特定外来植物は過年度にアレチウリの記録があるが、今年度は確認されなかった。

1) コナラ林

広く分布するコナラ林には、モミヤスダシイも混生し、尾根筋ではオニシバリ、ササバギンラン、クロムヨウランなど、斜面下部ではカタクリの大群落も確認された。林床ではイヌシデ、ヤマザクラ、ムラサキシキブ、コバノガマズミ、コウヤボウキ、アズマネザサ、シュンラン等が確認された。

2) 沢沿いの針広混交林

オシャグジデンド、ルイヨウボタン、ユキザサ等は沢沿いでのみ確認された。過年度にはミヤコヤブソテツやハクウンラン等の貴重な植物も確認されている。この他、ゼンマイ、シケシダ、ミツバウツギ、ダイコンソウ、ミヤマカンスゲなど陰湿な樹陰に生育する種が確認された。

3) ため池周辺の樹林

ため池周辺では、重要種のオオオキヨズミシダを唯一確認したほか、オニカナワラビ、アスカイノデ、リョウメンシダ、ベニシダ等多くのシダ植物や、ランヨウアオイ、ホドイモ、ヒサカキ、アオキ、ジャノヒゲ、セントウソウ等の樹林性植物が確認された。

4) 沢沿いのスギ林

スギ林にはタマアジサイが繁茂しており、タマアジサイに寄生するキヨスミウツボも新規確認された。この他、ハクモウイノデ、ウシタキソウ、ミゾホオズキ等の陰湿な樹林に生育する種が確認されたほか、沢沿いではヤマネコノメソウ、ネコノメソウ、ニリンソウ等、道沿いの苔むしたコンクリートブロックでは、クモノスダ、タチタネツケバナ等が確認された。

5) 草地、水田、湿地等

ススキ草地ではオミナエシやセンブリ、チガヤ草地ではウマノスズクサ、沿道ではヤブザクラ、オカタツナミソウ等が確認された。この他、草地性のコハコベ、ヘビイチゴ、ヤハズエンドウ、オカトラノオ、ヨモギ等、多くの草本類が確認された。

水田にミズニラ、湿地にショウブ、ネコノメソウ、畦にニリンソウ等が確認されたほか、スギナ、セリ、ハイヌメリ、イボクサ等多くの湿生植物が確認された。

確認種リストは資料編に示す。

(2) 重要種

確認種の内、重要種は合計 80 種であった。表 2-2 に重要種リストを示す。

この内、R04 の新規重要種はアズマイチゲ、キヨスミウツボ、トチカガミ、ヒメニラの 4 種、過年度 (H22~R01) に確認されたが今年度確認されなかった重要種はミヤコヤブソテツなど 48 種、継続して確認された重要種はマツサカシダなど 76 種であった。

表 2-2 植物 重要種リスト (1/3) ■: 網掛けは R04 確認

科名	種名	H22	H24	H25	H26	H27	H30	H31	R3-R4				選定基準							備考
									3月	5月	7月	9月	文化財 保護法	種の 保存法	環境省	東京都 2020 南多摩	神奈川県 2020 神奈川	東京都 2010 南多摩	神奈川県 2006 神奈川	
ヒカゲノカズラ	トウゲシバ	○	○	○	○		○	○	●			●						NT		
イワヒバ	タチクラマゴケ							○	●	●						VU		VU		
ミズナラ	ミズナラ	○		○	○		○	○			●				NT	EN	VU	VU	EN	
ハナヤスリ	アカハナワラビ						○	○	●							VU		VU		
	ナガホノナツノハナワラビ						○									EN				
	ナツノハナワラビ	○		○	○		○	○		●	●	●				VU		VU		
	ヒロノハナヤスリ	○					○	○		●						EN		VU		
キジノオシダ	キジノオシダ							○	●							EN	NT	VU	NT	
ウラジロ	ウラジロ	○	○	○	○		○	○	●	●	●	●				NT		VU		
コケシノブ	アオホラゴケ						○	○			●					VU		VU		
	コハイホラゴケ						○									EN		VU		
コバノイシカグマ	コバノイシカグマ							○		●						VU		CR		
ホングウシダ	ホラシノブ	○						○	●							EN		VU		
シノブ	シノブ						○	○		●		●				VU		VU		
イノモトソウ	マツサカシダ		○		○		○	○	●							EN		EN		
チャセンシダ	トキワトラノオ						○	○								VU		NT		
	クモノスダ				○		○	○	●		●	●				EN		VU		
シシガシラ	コモチシダ	○	○		○		○	○	●							VU		VU		
オシダ	オオカナワラビ	○					○	○	●							EN		VU		
	ホソバナライシダ						○	○		●						NT		VU		
	オニカナワラビ		○	○	○		○	○	●	●	●	●				VU		EN		
	ナンゴクナライシダ						○	○	●			●				NT		VU		
	ミヤコヤブソテツ						○	○								CR		NT		
	イワヘゴ				○		○	○	●							VU		VU		
	サイゴクベニシダ		○		○		○	○								EN		VU		
	マルバベニシダ	○	○		○		○	○	●		●					EN		EN		
	サクライカグマ							○								EN		VU		
	キヨスミヒメワラビ	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●						VU		
	トウゴクシダ	○	○	○	○		○	○	●			●				NT		NT		
	ヒメイタチシダ						○	○	●							EN				
	ナガバノイタチシダ						○									VU		CR		
	アスカイノデ		○		○			○	●			●				VU		VU		
	オオキヨズミシダ							○	●							EN		VU		
ヒメシダ	コハシゴシダ							○								VU		VU		
メシダ	ホソバイスワラビ	○		○	○		○	○		●	●	●				VU		VU		
	セイタカシケシダ			○	○	○	○	○								NT		NT		
	ハクモウイノデ	○		○			○	○		●	●					NT				
ウラボシ	オシヤグジデンド						○	○	●							CR		DD		
イラクサ	ミズ	○														NT		NT		
キンボウゲ	ニリンソウ	○	○				○	○	●	●						NT				
	イチリンソウ	○	○				○	○	●							NT				
	アズマイチゲ (注4)								●							VU	NT	VU	NT	
メギ	ルイヨウボタン	○		○	○	○	○	○		●	●					EN	VU	VU	EX	
マツモ	マツモ						○	○								CR	EN	EX	EN	
ウマノスズクサ	ウマノスズクサ	○		○	○		○	○		●						VU		VU		
	ランヨウアオイ	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●				EN		CR		
マタタビ	ウラジロマタタビ							○								VU		VU		
オトギリソウ	トモエソウ						○	○								EN		VU		
アブラナ	タチタネツケバナ	○					○		●	●						NT				
	イヌナズナ							○	●							VU				
ユキナシタ	チダケサシ	○		○	○		○	○			●							NT		
	ネコノメソウ	○	○	○	○	○	○	○	●							NT		NT		
	ヤマネコノメソウ		○			○	○	○	●									NT		

表 2-3 植物 重要種リスト (2/3) ■: 網掛けは R04 確認

科名	種名	H22	H24	H25	H26	H27	H30	H31	R3-R4				選定基準							備考
									3月	5月	7月	9月	文化財保護法	種の保存法	環境省	東京都2020	神奈川県2010	東京都2006	神奈川県	
バラ	ヤブザクラ	○	○	○	○		○	○	●						EN	VU	EN	VU	VU	
	エビガライチゴ			○	○		○	○								VU	NT			
マメ	ホドイモ							○		●	●	●				VU	NT			
	ユクノキ	○		○	○		○	○			●					EN			EX	
	キハギ	○		○			○	○				●				NT				
カタバミ	カントウミヤマカタバミ	○	○	○	○		○	○	●		●					NT		NT		
ミカン	キハダ	○														VU				
	オオバノキハダ	○		○	○	○	○	○		●		●						CR		
ヒメハギ	ヒメハギ	○		○				○			●					VU				
ニシキギ	オオツルウメモドキ			○	○		○	○		●						VU	VU			
	クロウメモドキ							○			●	●				EN				
	シナノキ	○		○	○		○	○		●						EN	VU			
ジンチョウゲ	オニシバリ	○	○	○			○	○	●	●		●				NT				
ミゾハコベ	ミゾハコベ			○			○	○								CR		CR		
アカバナ	ウシタキシソウ							○		●						VU	VU		EN	
	ウメガサソウ							○								NT		NT		
ツツジ	ナツハゼ	○		○	○		○	○		●	●						NT		VU	
リンドウ	リンドウ	○		○				○								VU				
	センブリ			○				○			●					EN		EN		
	ツルリンドウ		○	○			○	○		●	●					NT				
ガガイモ	タチガシワ	○		○			○									VU				
アカネ	イナモリソウ							○								VU	VU	VU	EN	
ムラサキ	ホタルカズラ	○	○	○	○		○	○	●	●						VU	VU			
	ヤマルリソウ	○	○	○			○	○	●	●	●					NT				
クマツヅラ	コムラサキ	○														EN				逸出の可能性あり
アワゴケ	ミズハコベ		○				○	○								EN		EN		
シソ	フトボナギナタコウジュ			○												VU				
	ミゾコウジュ	○	○		○		○	○								NT	VU	NT		
	オカタツナミソウ	○		○	○	○	○	○		●	●	●				NT	VU			
	ミヤマナミキ	○						○								VU				
ナス	ヤマホオズキ				○		○	○			●	●				EN	CR	NT	CR	VU
	イガホオズキ	○		○		○	○	○			●	●				VU		NT		
ゴマノハグサ	ミゾホオズキ	○		○			○	○		●	●	●				NT				
	コシオガマ	○		○												VU				
	オオヒナノウスツボ							○								EN		EN		
キツネノマゴ	ハグロソウ	○														NT				
ハマウツボ	キヨスミウツボ										●					CR		VU		
スイカズラ	オオツクバネウツギ							○								VU				
オミナエシ	オミナエシ						○	○		●						EN		VU		
キキョウ	ソバナ			○	○		○	○								VU	VU			
キク	オケラ	○		○				○		●		●				NT				
	サワヒヨドリ							○									EN			
	タカオヒゴタイ			○	○		○	○			●					VU	VU	VU	VU	
トチカガミ	トチカガミ											●				NT	・	EX	・	EX
ヒルムシロ	イトモ						○	○		●	●	●				NT	CR	EN	VU	VU
イバラモ	サガミトリゲモ			○	○		○	○								VU	CR	NT		VU
ユリ	ヒメニラ								●							VU	EN	VU	EN	
	カタクリ	○	○				○	○	●							VU	VU	VU	EN	
	ユキザサ	○						○			●					VU	NT			
	ヤマジノホトギス	○														NT	EN	NT	CR	誤同定の可能性 ^(※7)
	アマナ	○	○				○	○	●							VU	NT	NT	VU	
ヒガンバナ	キツネノカミソリ	○	○	○	○	○	○	○								NT		NT		
イグサ	ヒロハノコウガイゼキショウ			○				○								CR		NT		
	アオコウガイゼキショウ	○		○	○			○								VU		NT		
イネ	ヌメリグサ	○			○		○									NT		NT		

表 2-4 植物 重要種リスト (3/3) ■: 網掛けは R04 確認

科名	種名	H22	H24	H25	H26	H27	H30	H31	R3-R4				選定基準							備考
									3月	5月	7月	9月	文化財保護法	種の保存法	環境省	東京都2020	神奈川県2020	東京都2010	神奈川県2006	
サトイモ カヤツリグサ	ショウブ	○	○	○	○		○	○				●				NT		NT		
	タマツリスゲ							○								VU		VU		
	テキリスゲ						○									NT				
	ヒメシラスゲ			○	○	○		○								EN		VU		
	タカネマスキサ			○	○	○	○	○								EN		VU		
	シカクイ	○		○	○			○								VU	NT	NT		
	クロテンツキ							○								VU		VU		
ラン	エビネ	○	○	○	○		○	○	●	●	●	●			NT	NT	NT	VU	VU	一部植栽あり
	ギンラン	○		○	○			○		●						VU		VU		
	キンラン	○		○	○		○	○		●	●	●			VU	NT	NT	VU	VU	
	ササバギラン	○		○	○		○	○		●	●	●				NT		NT		
	マヤラン			○				○							VU					
	ツチアケビ 注4)	○			○						●					EN		VU		
	タシロラン	○													NT					
	アケボノシュスラン	○	○		○		○	○								EN	VU	CR	VU	
	ハクウンラン			○	○											CR	EN	CR	VU	
	ムヨウラン			○	○			○								VU	VU	VU		
	クロムヨウラン	○		○	○		○	○	●		●	●						VU	VU	
	コ克蘭	○	○	○	○		○	○	●	●	●	●				NT		NT		
	カヤラン	○	○				○	○	●		●	●				VU	NT	VU	VU	
64科	128種	64種	31種	58種	53種	13種	82種	107種	40	36	37	31	0種	0種	10種	109種	25種	92種	23種	
									80種											

注1) 科及び種の名称、配列等は『植物目録1987(環境庁編,1988)』に基本的に準拠したが、学名は最新のものに更新している。また、未掲載の外来種等が別途追加している。

注2) 植物の生育状況(自生を除く)を次のとおりに分類し、備考欄に記載した。

植栽種: 人為的に植栽された種類。なお、農作物については調査対象としなかった。

逸出種: 栽培植物が一時的に野生化した種類。

外来種: もともとその地域になかった生物が、人間によって外国などから持ち込まれたもの。ここでは幕末の開国以降に渡来した種。

注3) 種の特定に至らない植物のうち、同じ属に含まれる種類が他にあげられている場合は種類数合計には計上しなかった。

注4) H22年度のツチアケビ、R4年度のアズマイチゲは確認位置が調査対象地域外ではあるが、近接地であること、重要種であることからリストに含めた。

注5) ウバメガシ、サツキ、セッコクは植栽されたものであるため、重要種として扱わない。

注6) H30年度のオオムラサキはヒラドツツジの紫花の品種であるため、ヒラドツツジに含めた。

注7) H22年度のヤマジノホトギスは有識者より誤同定の可能性が高いと指摘があった。

【選定基準】

文化財保護法・・・「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)

〔特天〕特別天然記念物 〔天〕天然記念物

種の保存法・・・『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)』

〔国内〕国内希少野生動植物種

環境省・・・『環境省レッドリスト2020(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)』(環境省,令和2年3月27日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔LP〕絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020南多摩・・・『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)2020年版ー』(東京都環境局自然環境部,令和3年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

神奈川県2020・・・『神奈川県レッドデータブック 2022 植物編』(神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課・神奈川県立生命の星・地球博物館編,令和4年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔注〕注目種

東京都2010南多摩・・・『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)2010年版』(東京都環境局自然環境部,平成22年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

神奈川県2006・・・『神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006』(神奈川県立生命の星・地球博物館,平成18年7月15日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔要〕要注意種 〔注〕注目種 〔減〕減少種 〔希〕希少種

今年度(R04)確認された重要種を以下に示す。

1) トウゲシバ

地上生の常緑シダ。空中湿度に注意が必要な種である。

2) タチクラマゴケ

草地に生育する常緑シダ。山麓から路傍の向陽斜面や石垣等に生育する。

3) ミズニラ

多年生の沈水～湿生種。貧栄養の湖沼や溜池、湧水のある河川や水路、水田に生育する。

4) アカハナワラビ

冬緑性の小型シダ。向陽の山地林下に生育する。

5) ナツノハナワラビ

夏緑性のシダ。山地の疎林の林床などに生育する。

6) ヒロハハナヤスリ

4月頃から生長し夏には枯れる小型シダ。

7) キジノオシダ

地上生の常緑シダ。山地林下に生育する。

8) ウラジロ

常緑性の中型シダ。山麓や山地の向陽地に群生する。

9) アオホラゴケ

小型の常緑性シダ。低山林中の湿った岩上や苔むした樹幹等に着生する。

10) コバノイシカグマ

常緑性で地上生の中型シダ。山地林下に群生する。

11) ホラシノブ

常緑性で地上生の中型シダ。日の当たるやや乾燥した場所のやや湿った泥土に生育することが多い。

12) シノブ

夏緑性の着生シダ。山地の岩上や樹幹上に着生する。

13) マツサカシダ

地上生の常緑シダ。暖地の山麓斜面や林縁に生育する。

14) クモノスシダ

岩上生の常緑シダ。山地の岩上に生育する。

15) コモチシダ

地上生で常緑のやや大型のシダ。暖地の向陽の山麓や海岸近く、山林中にも生育する。

16) オオカナワラビ

地上生の常緑シダ。暖地の山地林床に生育する。

17) ホソバナライシダ

夏緑性の地上生シダ。山地林下に生育する。

18) ナンゴクナライシダ

夏緑性の地上生シダ。山地林下に生育する。

19) オニカナワラビ

地上生の常緑シダ。低山地のやや乾いた林中の崖下や林床に生育する。

20) キヨスミヒメワラビ

地上生の常緑シダ。暖地の山中で、やや陰湿な林下に生育する。

21) イワヘゴ

地上生の常緑シダ。暖地の山地の溪側などの陰地の林床に生育する。

22) トウゴクシダ

地上生の常緑シダ。低山地の林下や村落付近などに生育する。

23) マルバベニシダ

地上生の常緑シダ。暖地の低山地の林床などに生育する。

24) ヒメイタチシダ

地上生の常緑シダ。暖地の低地の林縁など比較的乾いたところに生育する。

25) アスカイノデ

地上生の常緑シダ。太平洋側の海岸近くの山林内によくみられるが、内陸にも生育する。

26) オオオキヨズミシダ

地上生の常緑シダ。山地林下斜面や岩場、特に川沿いの立地に生育する。

27) ホソバイヌワラビ

夏緑性の地上生シダ。やや湿った林床などに生育する。

28) ハクモウイノデ

夏緑性の地上生シダ。山地のやや明るい林中から陰湿な林床に生育する。

29) オシャグジデンド

冬緑性の着生シダ。深山の樹幹や岩上に着生する。

30) ニリンソウ

早春季に生育する多年草。温帯林の林床や林間の草地に群落をつくる。

31) イチリンソウ

早春季に生育する多年草。温帯林の日当たりの良い草地や林縁に生育する。

32) アズマイチゲ

早春季に生育する多年草。温帯林の林内や林縁に生育する。

33) ルイヨウボタン

多年草。温帯の落葉広葉樹林の林床に生育する。

34) ウマノスズクサ

つる性の多年草。川土手や畑、林縁などに生育する。

35) ランヨウアオイ

常緑性の多年草。山地の落葉樹林下に生育する。

36) タチタネツケバナ

越年草。河原や林縁など、やや乾いた明るい場所に生育する。

37) イヌナズナ

越年草。路傍や耕作地、河川敷や林縁などに生育する。

38) チダケサシ

根茎がある多年草。明るい林床、林縁、山麓の湿った草原に生育する。

39) ネコノメソウ

小型で軟弱な多年草。山麓の湿地や谷間、水田などにも生育する。

40) ヤマネコノメソウ

小型で軟弱な多年草。林床から林縁、低地の湿った石垣などにも生育する。

41) ヤブザクラ

落葉高木。低山や丘陵地に生育する。

42) ホドイモ

つる性の多年草。日当たりの良い林縁に生育する。

43) ユクノキ

落葉高木。山地の森林中にまれに生育する。

44) キハギ

高さ 2m以上になる低木。日当たりの良い丘陵地や低山地の、特に岩の多いに生育する。

45) カントウミヤマカタバミ

多年草。山地のスギ林やブナ林などに生育する。

46) オオバノキハダ

落葉高木。関東地方・中部地方の山地林内に生育する。

47) ヒメハギ

常緑の多年草。日当たりの良いやや乾いたところに生育する。

48) オオツルウメモドキ

落葉藤本。暖帯から温帯の山野の林縁に生育する。

49) クロウメモドキ

落葉低木または小高木。山地に生育する。

50) シナノキ

落葉高木。山地に生育する。

51) オニシバリ

高さ 1.5m 程の落葉小低木。落葉樹林内に生育する。

52) ウシタキソウ

多年草。湿り気のある山地林下に生育する。

53) ナツハゼ

高さ 3mになる落葉低木。林縁に生育する。

54) センブリ

高さ 5-20cm 程の一年草または越年草。日当たりの良い山野に生育する。

55) ツルリンドウ

つる性の多年草。山地の林下に生育する。

56) ホタルカズラ

多年草。乾いた疎林下の斜面や岩の多いし草地に生育する。

57) ヤマルリソウ

多年草。山の木陰や谷沿いの斜面に生育する。

58) オカタツナミソウ

多年草。低山地の林縁に生育する。

59) イガホオズキ

多年草。山地の林内に生育する。

60) ヤマホオズキ

多年草。山地のやや湿った林下にまれに生育する。

61) ミゾホオズキ

直立または匍匐する柔らかい多年草。山中の水湿地に生育する。

62) キヨスミウツボ

葉緑素を持たない寄生植物。山地の木陰に生育し、カシ類やアジサイ類の根に寄生する。

63) オミナエシ

高さ 1mにもなる多年草。日当たりの良い山の草地に生育する。

64) オケラ

高さ 1mにもなる多年草。低山や山地の乾いた草原、夏緑樹の疎林や林縁に生育する。

65) タカオヒゴタイ

高さ 60 cm程の多年草。低山から山地の夏緑林下に生育する。

66) イトモ

小型の多年生沈水植物。湖沼や溜池、水路などに生育する。

67) ヒメニラ

3~4月に生長し約3週間で地上部が枯れてしまう繊細な多年草。山野に生育する。

68) カタクリ

早春季に生育する多年草。山野に群生する。

69) ユキザサ

半地中性の多年草。山地林下に生育する。

70) アマナ

早春季に生育する多年草。原野に生育する。

71) トチカガミ

多年生の浮葉植物。平地の湖沼や溜池、水路などに群生する。

72) ショウブ

多年生の抽水植物。湖沼や溜池、水路、湿地などに生育する。

73) エビネ

地上生の多年草。暖温帯の樹林下に生育する。

74) ギンラン

地上生の多年草。冷温帯から暖温帯の樹林下に生育する。

75) キンラン

地上生の多年草。暖温帯の疎林下に生育する。

76) ササバギンラン

地上生の多年草。亜寒帯から暖温帯の樹林下に生育する。

77) ツチアケビ

地上生の多年草。菌従属栄養植物。冷温帯から暖温帯の樹林下に生育する。

78) クロムヨウラン

地上生の菌従属栄養植物。暖温帯から亜熱帯の常緑広葉樹林下に生育する。

79) コ克蘭

地上生の多年草。暖温帯の常緑樹林下に生育する。

80) カヤラン

着生の多年草。暖温帯の木の枝や岩に着生する。

2.2 哺乳類

(1) 確認状況

今年度調査では合計 17 種の哺乳類が確認された。表 2-5 に確認種リストを示す。

哺乳類では里山を代表するタヌキやアナグマ、山地性のイノシシやニホンジカその他、樹上性のニホンリスやムササビが確認された。これは周辺地域との緑地の連続性が保たれていることを示唆するものと考えられる。なお、イノシシについては各所で掘り返しの痕跡が確認されており、今後、希少植物への被害等が心配される。また、今年度初めて確認されたニホンジカについても摂食により、希少植物やウグイス等の営巣環境に影響を及ぼす可能性がある。

特定外来生物ではアライグマが確認され、段木入地区や大地沢地区等の自動撮影カメラで徘徊する様子がとらえられたほか、段木入地区や権現谷地区等では足跡が確認された。

表 2-5 哺乳類リスト ■：網掛けは R04 確認

No.	目名	科名	種名	H22			H29	H31			R3-R4				選定基準							備考
				春	夏	秋	夏	4月	5月	6月	3月	4月	6月	7月	文化財 保護法	種の 保存法	環境省	東京都 2020 南多摩	神奈川県	東京都 2010 南多摩		
1	モグラ	モグラ	ヒメズ						○		○											
2			アズマモグラ							○	○	●	●	●								
3			モグラ属の一種	○	○	○																
4	コウモリ	ヒナコウモリ	ヒナコウモリ科の一種※	○		○					○		●		●							
5			コウモリ目の一種※						○													
6	ウサギ	ウサギ	ニホンノウサギ	○	○	○	○				○	●	●	●	●							
7	ネズミ	リス	ニホンリス	○	○	○							●					VU	NT		重要種	
8			リス属の一種						○		○	●										
9			ムササビ		○				○	○		●	●	●	●			VU		*	重要種	
10		ネズミ	アカネズミ	○	○	○					○			●								
11			ヒメネズミ	○							○											
12			ネズミ科の一種									●	●	●								
13	ネコ	アライグマ	アライグマ		○		○		○			●	●	●							特定外来生物	
14		イヌ	タヌキ	○	○	○	○	○	○			●	●	●								
15			キツネ	○					○										NT		重要種	
16	イタチ	テン	テン	○	○				○	○	○	●	●	●								
17			イタチ						○			●	●	●					NT		重要種	
18			ニホンアナグマ	○	○	○				○	○	●	●	●								
19			イタチ科の一種	○			○					●										
20		ジャコウネコ	ハクビシン			○	○					●	●	●								
21	ウシ	イノシシ	イノシシ	○	○	○	○	○		○		●	●	●								
22		シカ	ニホンジカ									●	●	●								
季節別種数合計				12種	10種	10種		6種	8種	7種	9種	14種	14種	13種	3種	0種	0種	0種	2種	3種	1種	
年間合計				14種					15種			17種										

※コウモリ類：H22は45kHz、H31は20kHz、R3-R4は35kHzと45-55kHz。

【選定基準】

文化財保護法…「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)

[特天] 特別天然記念物 [天] 天然記念物

種の保存法…『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)』

[国内] 国内希少野生動植物種

環境省…『環境省レッドリスト2020(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)』(環境省, 令和2年3月27日)

[EX] 絶滅 [EW] 野生絶滅 [CR+EN] 絶滅危惧Ⅰ類 [CR] 絶滅危惧ⅠA類 [EN] 絶滅危惧ⅠB類

[VU] 絶滅危惧Ⅱ類 [NT] 準絶滅危惧 [DD] 情報不足 [LP] 絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020南多摩…『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト(本土部)2020年版』(東京都環境局自然環境部, 令和3年3月)

[EX] 絶滅 [EW] 野生絶滅 [CR+EN] 絶滅危惧Ⅰ類 [CR] 絶滅危惧ⅠA類 [EN] 絶滅危惧ⅠB類

[VU] 絶滅危惧Ⅱ類 [NT] 準絶滅危惧 [DD] 情報不足 [*] 留意種

神奈川県…『神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006』(神奈川県立生命の星・地球博物館, 平成18年7月15日)

[EX] 絶滅 [EW] 野生絶滅 [CR+EN] 絶滅危惧Ⅰ類 [CR] 絶滅危惧ⅠA類 [EN] 絶滅危惧ⅠB類

[VU] 絶滅危惧Ⅱ類 [NT] 準絶滅危惧 [DD] 情報不足 [要] 要注意種 [注] 注目種 [減] 減少種 [希] 希少種

東京都2010南多摩…『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト(本土部)～2010年版』(東京都環境局自然環境部, 平成22年3月)

[EX] 絶滅 [EW] 野生絶滅 [CR+EN] 絶滅危惧Ⅰ類 [CR] 絶滅危惧ⅠA類 [EN] 絶滅危惧ⅠB類

[VU] 絶滅危惧Ⅱ類 [NT] 準絶滅危惧 [DD] 情報不足 [*] 留意種

(2) 重要種

重要種はニホンリス、ムササビ、イタチの3種であった。表 2-6 に重要種リストを示す。

3 種ともに過年度から継続して確認されている。一方、過年度（H22～R01）に確認されたが、今年度確認されなかった重要種ではキツネがあげられる。

表 2-6 哺乳類 重要種リスト ■：網掛けは R04 確認

目名	科名	種名	H22			H29	H31			R3-R4				選定基準						備考
			春	夏	秋	夏	4月	5月	6月	3月	4月	6月	7月	文化財 保護法	種の 保存法	環境省	東京都 2020 南多摩	神奈川県	東京都 2010 南多摩	
ネズミ	リス	ニホンリス	○	○	○						●						VU	NT		重要種
		ムササビ		○			○	○		●	●	●	●				VU		*	重要種
ネコ	イヌ	キツネ	○				○											NT		重要種
	イタチ	イタチ					○			●	●	●						NT		重要種
季節別確認合計			2種	2種	1種		3種	1種	0種	2種	3種	2種	1種							
年間合計			3種			0種	3種			3種				0種	0種	0種	2種	3種	1種	

【選定基準】

文化財保護法…「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)

〔特天〕特別天然記念物 〔天〕天然記念物

種の保存法…『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)』

〔国内〕国内希少野生動植物種

環境省…『環境省レッドリスト2020(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)』(環境省,令和2年3月27日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔LP〕絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020南多摩…『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト(本土部)2020年版～』(東京都環境局自然環境部,令和3年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

神奈川県…『神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006』(神奈川県立生命の星・地球博物館,平成18年7月15日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔要〕要注意種 〔注〕注目種 〔減〕減少種 〔希〕希少種

東京都2010南多摩…『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト(本土部)～2010年版』(東京都環境局自然環境部,平成22年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

今年度(R04)確認された重要種を以下に示す。

1) ニホンリス

本州、四国、淡路島に分布。日本固有種。樹上で主に生息し、植物質を食べる。主に朝と夕に活動し、夜間は球状巣で休息。

2) ムササビ

夜間に樹幹を滑空し、さまざまな冬芽・葉・花・雄花・種子・果実を食べる。日中は樹洞・屋根裏・球状の巣で休息する。

3) イタチ

主な生息地は平野部。ネズミ、昆虫、魚などの小動物を主に食べる。

2.3 鳥 類

(1) 確認状況

今年度調査では合計 53 種の鳥類が確認された。表 2-7 に確認種リストを示す。

鳥類ではノスリが営巣した他、サシバ、フクロウ等の生態系の上位種や、クロツグミ、オオルリなど山地性の種が確認された。また今回は確認されなかったが、過去にはミゾゴイの営巣も確認されており、山地から丘陵地を反映した結果と考えられる。なお、カワウ、カワセミ、リュウキュウサンショウクイ、アトリの 4 種が今年度新たに確認された。

特定外来生物ではガビチョウとソウシチョウの 2 種が各所で確認され、ガビチョウは冬季・夏季とも、ソウシチョウは冬季にのみ確認された。

スポットセンサスでは植生の異なる 10 箇所を対象に実施し、50m 圏内で 10 分間に出現した鳥類を記録した。全体として樹林、林縁、市街地等多様な環境に適応できるヒヨドリやメジロが優占する結果となったが、②コナラ・モミ林、⑥開放水面の林縁、⑨スギ・ヒノキ植林（林床：アオキ型）では樹林性のエナガやヤマガラの優占度が 10～20%程度と比較的高い結果が得られた。また、夏季調査時には夏鳥として飛来した樹林性のキビタキが多くの地点で確認された。その他、優占度は低いものの各環境を反映して④水田・畑地、伐採跡地では水辺を好むキセキレイや伐採跡地の草地で囀るホオジロ、⑥開放水面の林縁、⑨スギ・ヒノキ植林（林床：アオキ型）では山地の自然林で営巣するコサメビタキ、サンコウチョウ、クロツグミなどが確認された。地点ごとの具体的な結果については資料編に示した。

表 2-7 鳥類リスト ■：網掛けはR04 確認

No.	目名	科名	種名	H22	H27	H28	H29	H30	H31	R3-R4	渡り 区分	選定基準						備考				
				繁殖期	越冬期	1-3月	4-9月	11-3月	4-9月	10-3月	4-8月	1月	6月	文化財 保護法	種の 保存法	環境省	東京都 2020 年多摩	神奈川	東京都 2010 年多摩			
1	キジ	キジ	コジュケイ	○	○							●	●	留鳥								
2	カモ	カモ	カルガモ	○	○							●	●	留鳥								
3	ハト	ハト	キジバト	○	○				○			●	●	留鳥								
4			アオバト	○								●	●	留鳥			NT	注	NT	重要種		
5	ホトトギス	ウ	カワウ									●	●	留鳥								
6	ペリカン	サギ	ミソサギ			○			○	○	○			夏鳥		VU	EN	CR+EN	EN	重要種		
7			ゴイサギ	○										留鳥			VU			重要種		
8			アオサギ	○										留鳥								
9	カッコー	カッコー	ホトトギス	○								●		夏鳥			NT		NT	重要種		
10	タカ	ミサゴ	ミサゴ		○									留鳥		NT	EN	VU	EN	重要種		
11		タカ	ハチクマ			○			○		○			夏鳥		NT	EN	CR+EN	CR	重要種		
12			トビ	○	○	○	○	○			○	●	●	留鳥			NT		NT	重要種		
13			ツミ	○	○	○	○	○			○			留鳥			NT	VU	VU	重要種		
14			ハイタカ		○	○								冬鳥		NT	VU	希	VU	重要種		
15			オオタカ	○	○	○	○	○	○		○			留鳥		NT	VU	VU	VU	重要種		
16			サシバ			○						●		夏鳥		VU	CR	CR+EN	CR	重要種		
17			ノスリ	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	留鳥			VU	VU	VU	重要種		
18	フクロウ	フクロウ	コノハズク					○						夏鳥			CR	CR+EN	CR	重要種		
19			フクロウ	○			○		○		○	●		留鳥			EN	NT	EN	重要種		
20			アオバズク	○					○	○				夏鳥			CR	VU	EN	重要種		
21	カワセミ	カワセミ	カワセミ									●		留鳥			NT		NT	重要種		
22	キツツキ	キツツキ	コゲラ	○	○							●	●	留鳥								
23			アカゲラ	○	○							●		留鳥			NT		NT	重要種		
24			アオゲラ	○	○							●	●	留鳥					NT	重要種(旧HL)		
25	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ							○				留鳥			VU		VU	重要種		
26			ハヤブサ		○									冬鳥	国内	VU	VU	CR+EN	VU	重要種		
27	スズメ	ヤイロチョウ	ヤイロチョウ					○						夏鳥	国内	EN		DD		重要種		
28		サンショウクイ	サンショウクイ	○								●		旅鳥		VU	CR	VU	CR	重要種		
29			リュウキュウサンショウクイ									●		留鳥								
30			サンコウチョウ	○								●		夏鳥			VU	VU	VU	重要種		
31	モズ		モズ		○							●		留鳥								
32	カラス	カラス	カラス	○	○							●	●	留鳥								
33			ハシボソガラス	○	○							●	●	留鳥								
34			ハシブトガラス	○	○							●	●	留鳥								
35	シジュウカラ		コガラ		○									渡鳥				VU		重要種		
36			ヤマガラ	○	○							●	●	留鳥								
37			ヒガラ		○							●		渡鳥								
38			シジュウカラ	○	○							●	●	留鳥								
39	ツバメ		ツバメ	○								●	●	夏鳥				減		重要種		
40			イワツバメ	○										夏鳥			NT			重要種		
41	ヒヨドリ	ヒヨドリ	ヒヨドリ	○	○							●	●	留鳥								
42	ウグイス	ウグイス	ウグイス	○	○							●	●	留鳥					NT	重要種(旧HL)		
43			ヤブサメ	○					○			●	●	夏鳥			VU	NT	VU	重要種		
44	エナガ	エナガ	エナガ	○	○							●	●	留鳥								
45	チメドリ	ガビチョウ	ガビチョウ	○	○							●	●	留鳥						特定外来生物		
46			ソウシチョウ	○	○							●	●	渡鳥						特定外来生物		
47	メジロ	メジロ	メジロ	○	○							●	●	留鳥								
48	ミソサザ		ミソサザ	○	○							●		渡鳥			NT		NT	重要種		
49	ヒタキ		トラツグミ	○	○							●		渡鳥			VU	減	VU	重要種		
50			クロツグミ	○								●		夏鳥			NT	VU	NT	重要種		
51			シロハラ		○	○						●		冬鳥								
52			ツグミ	○	○							●		冬鳥								
53			ルリビタキ	○	○							●		冬鳥				VU		重要種		
54			ジョウビタキ	○	○							●		冬鳥								
55			コサメビタキ	○									●	夏鳥			VU	CR+EN	VU	重要種		
56			キビタキ	○								●		夏鳥				減		重要種		
57			オオルリ	○								●		旅鳥			NT	NT	NT	重要種		
58	スズメ	スズメ	スズメ	○	○							●	●	留鳥								
59	セキレイ	セキレイ	セキレイ	○	○							●	●	留鳥				減		重要種		
60			ハクセキレイ	○	○							●	●	留鳥								
61			セグロセキレイ		○							●		留鳥			NT	減	NT	重要種		
62	アトリ	アトリ	アトリ									●		冬鳥								
63			カワラヒワ	○	○							●	●	留鳥				減		重要種		
64			イカル	○	○							●	●	留鳥					NT	重要種(旧HL)		
65	ホオジロ	ホオジロ	ホオジロ	○	○							●	●	留鳥			NT			重要種		
66			カシラダカ		○							●		冬鳥			NT			重要種		
67			ミヤマホオジロ		○							●		冬鳥								
68			アオジ		○							●		冬鳥				VU		重要種		
69			クロジ		○							●		冬鳥					NT	重要種		
季節別種数合計				45種	39種		7種	6種	6種	8種	5種	2種	9種	35種	38種		0種	2種	9種	33種	31種	32種
年間合計				56種			7種	10種		7種			53種				44種					

【選定基準】

文化財保護法…「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)

〔特天〕特別天然記念物 〔天〕天然記念物

種の保存法…「絶滅のおそれのある野生動物種の保存に関する法律」(平成4年法律第76号)】

〔国内〕国内希少野生動物種

環境省…「環境省レッドリスト2020(絶滅のおそれのある野生動物の種のリスト)」(環境省 令和2年3月27日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔LP〕絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020年多摩…「東京都の保護上重要な野生動物種(本土部)～東京都レッドリスト(本土部)2020年版」(東京都環境局自然環境部 令和3年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

神奈川県…「神奈川県レッドリスト(野生動物種)」(神奈川県立生命・地球博物館 平成18年7月15日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔要〕要注目種 〔注〕注目種 〔希〕希少種

東京都2010年多摩…「東京都の保護上重要な野生動物種(本土部)～東京都レッドリスト(本土部)2010年版」(東京都環境局自然環境部 平成22年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

(2) 重要種

確認種の内、重要種は 29 種であった。表 2-8 に重要種リストを示す。

R04 の新規重要種はカワセミ、過年度 (H22～R01) に確認されたが今年度確認されなかった重要種はミゾゴイなど 15 種、継続して確認された重要種はサシバなど 28 種であった。

表 2-8 鳥類 重要種リスト ■：網掛けは R04 確認

目名	科名	種名	H22		H27		H28		H29		H30		H31		R3-R4		渡り 区分	選定基準						備考	
			繁殖期	越冬期	1-3月	4-9月	11-3月	4-9月	4-9月	10-3月	4-8月	1月	6月	文化財 保護法	種の 保存法	環境省		東京都 2020 南多摩	神奈川県	東京都 2010 南多摩					
ハト	ハト	アオバト	○												●	留鳥				NT	注	NT	重要種		
ペリカン	サギ	ミゾゴイ					○		○	○		○				留鳥			VU	EN	CR+EN	EN	重要種		
		ゴイサギ	○													留鳥			VU				重要種		
カッコウ	カッコウ	ホトトギス	○												●	留鳥				NT		NT	重要種		
タカ	ミサゴ	ミサゴ			○											留鳥			NT	EN	VU	EN	重要種		
タカ	タカ	ハチクマ					○		○				○			留鳥			NT	EN	CR+EN	CR	重要種		
		トビ	○		○			○				○		●	●	留鳥				NT		NT	重要種		
		ツミ	○		○	○	○	○	○							留鳥				NT	VU	VU	重要種		
		ハイタカ			○			○								留鳥			NT	VU	希	VU	重要種		
		オオタカ	○	○	○		○	○	○			○	○			留鳥			NT	VU	VU	VU	重要種		
		サシバ					○								●	留鳥			VU	CR	CR+EN	CR	重要種		
		ノスリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	留鳥				VU	VU	VU	重要種		
フクロウ	フクロウ	コノハズク							○							留鳥				CR	CR+EN	CR	重要種		
		フクロウ	○				○			○		○			●	留鳥				EN	NT	EN	重要種		
		アオバズク	○							○		○		○		留鳥				CR	VU	EN	重要種		
ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ													●	留鳥				NT		NT	重要種		
キツツキ	キツツキ	アカゲラ	○	○											●	留鳥				NT		NT	重要種		
		アオゲラ	○	○											●	留鳥						NT	重要種 (IBRL)		
ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ									○					留鳥					VU		VU	重要種	
		ハヤブサ			○											留鳥					VU	CR+EN	VU	重要種	
スズメ	ヤシロチョウ	ヤシロチョウ							○							留鳥		国内	EN	VU	DD		VU	重要種	
	サンショウクイ	サンショウクイ	○												●	旅鳥		国内	VU	CR	VU	CR		重要種	
	サンコウチョウ	サンコウチョウ	○												●	留鳥				VU	VU	VU		重要種	
	モズ	モズ			○										●	留鳥					NT	減	NT	重要種	
	コガラ	コガラ			○											留鳥						VU		重要種	
	ツバメ	ツバメ	○												●	留鳥						減		重要種	
	イフツバメ	イフツバメ	○													留鳥					NT			重要種	
ウグイス	ウグイス	ウグイス	○	○											●	●	留鳥						NT	重要種 (IBRL)	
	ヤブサメ	ヤブサメ	○							○					●	留鳥				VU	NT	VU		重要種	
ミソサザイ	ミソサザイ	ミソサザイ			○										●	留鳥				NT		NT		重要種	
ヒタキ	トラツグミ	トラツグミ			○											留鳥				VU	減	VU		重要種	
	クロツグミ	クロツグミ	○												●	留鳥				NT	VU	NT		重要種	
	ルリビタキ	ルリビタキ	○	○											●	留鳥					VU			重要種	
	コサメビタキ	コサメビタキ	○												●	留鳥				VU	CR+EN	VU		重要種	
	キビタキ	キビタキ	○												●	留鳥					減			重要種	
	オオルリ	オオルリ	○												●	旅鳥					NT	NT		重要種	
セキレイ	キセキレイ	キセキレイ	○	○											●	●	留鳥					減		重要種	
	セグロセキレイ	セグロセキレイ			○										●	留鳥				NT		減	NT	重要種	
アトリ	カワラヒワ	カワラヒワ	○	○											●	●	留鳥				NT	減		重要種	
	イカル	イカル	○	○											●	留鳥							NT	重要種 (IBRL)	
ホオジロ	ホオジロ	ホオジロ	○	○											●	●	留鳥				NT			重要種	
	カシラダカ	カシラダカ			○										●	留鳥					NT			重要種	
	アオジ	アオジ			○										●	留鳥						VU		重要種	
	クロジ	クロジ			○										●	留鳥					NT	CR+EN	NT	重要種	
季節別種数合計			26種	18種											15種	21種			0種	2種	9種	33種	31種	32種	
年間合計			34種		7種	6種	6種	7種	5種	2種					15種	29種				2種	44種				

【選定基準】

文化財保護法…「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)

〔特天〕特別天然記念物 〔天〕天然記念物

種の保存法…『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)』

〔国内〕国内希少野生動植物種

環境省…『環境省レッドリスト2020(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)』(環境省,令和2年3月27日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔LP〕絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020南多摩…『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)2020年版ー』(東京都環境局自然環境部,令和3年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

神奈川県…『神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006』(神奈川県立生命の星・地球博物館,平成18年7月15日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔要〕要注意種 〔注〕注目種 〔減〕減少種 〔希〕希少種

東京都2010南多摩…『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)2010年版』(東京都環境局自然環境部,平成22年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

今年度(R04)確認された重要種を以下に示す。

1) アオバト

南日本では留鳥だが、北日本では主に夏鳥。

2) ホトトギス

夏鳥として飛来し、ウグイスに托卵する。

3) トビ

全国に留鳥として分布する。海岸、湖沼や河川などの水辺に生息し、樹上に営巢する。

4) サシバ

本州から九州にかけて夏鳥として飛来し、繁殖する。

5) ノスリ

全国に冬鳥として越冬し、東日本の山地・丘陵地で繁殖する。

6) フクロウ

九州以北に留鳥として分布する。主に里山や森林の樹洞、カラス・猛禽類等の古巢で営巢する。

7) カワセミ

本州以南で留鳥として分布する。

8) アカゲラ

全国に留鳥として分布し、山地・丘陵地の樹林で繁殖する。

9) アオゲラ

本州以南の山地から平野部に留鳥として分布し、樹林で繁殖する。

10) サンショウクイ

本州以南に夏鳥として飛来するが、東京都では渡りの時期に通過個体が見られるのみである。

11) サンコウチョウ

本州以南に夏鳥として飛来し、山地・丘陵地の樹林で繁殖する。

12) モズ

全国の山地から平地の疎林、農耕地、市街地などに留鳥として分布し、低木に椀状の巣をつくって営巢する。

13) ツバメ

全国に夏鳥として飛来し、平地や山間部の農耕地や市街地、河川敷などに生息する。

14) ウグイス

全国に留鳥または漂鳥として分布する。

15) ヤブサメ

屋久島以北に夏鳥として飛来し、山地・丘陵地の林床にササなどが繁茂する広葉樹林や針広混交林で繁殖する。

16) ミソサザイ

全国に留鳥または漂鳥として分布する。

17) クロツグミ

九州以北に夏鳥として飛来し、山地・丘陵地の針広混交林等で繁殖する。

18) ルリビタキ

全国に分布し、本州では標高 1,500m 以上の高山帯から亜高山帯にかけての針葉樹林や針広混交林等で繁殖する。

19) コサメビタキ

九州以北に夏鳥として飛来し、主に標高 1,000m 以下の低山帯の樹上の水平な枝上に営巣する。

20) キビタキ

全国に夏鳥として飛来し、山地・丘陵地の落葉広葉樹林や針広混交林で繁殖する。

21) オオルリ

屋久島以北に夏鳥として飛来し、低山帯の沢や湿地近くの低木林や疎林で繁殖する。

22) キセキレイ

本州から九州にかけて留鳥として分布する。山地の河川上流域、高標高の裸地など広く生息し、木の枝の上、石や人家の隙間などに営巣する。

23) セグロセキレイ

本州から九州にかけて留鳥として分布する。山地から平野部の河川、湖沼、農耕地、住宅地に生息、繁殖している。

24) カワラヒワ

本州から九州にかけて留鳥として分布する。疎林、農耕地、河川敷、灌木草原、住宅地などに生息し、枝上に碗状の巣をつくって営巣する。

25) イカル

本州から九州にかけて留鳥または漂鳥として分布する。山地・丘陵地等の自然林に生息し、落葉広葉樹や針広混交林の樹上で繁殖する。

26) ホオジロ

本州から九州にかけて留鳥として分布する。山地から平野部にかけての明るい林縁や草原、河原等に生息し、低木の枝上や地上に営巣する。

27) カシラダカ

全国に冬鳥として飛来し、明るい林縁、河原、農耕地等で越冬する。

28) アオジ

北海道や東北地方では平地から山地まで広く分布する。

29) クロジ

本州では留鳥または漂鳥として分布し、標高 1,000m を超える山地帯から高山帯の下層植生が発達する落葉広葉樹林や針広混交林で繁殖する。

2.4 爬虫類

(1) 確認状況

今年度調査では合計 8 種の爬虫類が確認された。表 2-9 に確認種リストを示す。

爬虫類ではタカチホヘビとニホンヤモリが初めて確認された。タカチホヘビは夜行性で、かつ湿潤な土壌中やガレ場など半地中生活を送るため、一般に確認されにくいヘビである。その他、シマヘビ、アオダイショウ、ヒバカリ、ヤマカガシ等が確認された。

表 2-9 爬虫類リスト ■：網掛けは R04 確認

No.	目名	科名	種名	H22			H31			R3-R4					選定基準						備考
				春	夏	秋	4月	5月	6月	3月	4月	6月	7月	10月*	文化財 保護法	種の 保存法	環境省	東京都 2020 南多摩	神奈川県	東京都 2010 南多摩	
1	有鱗目	ヤモリ	ニホンヤモリ								●	●					*	*	重要種		
2		トカゲ	ヒガシニホトカゲ	○	○		○		○	●	●	●					VU	要	VU	重要種	
3		カナヘビ	ニホンカナヘビ		○	○	○		○		●						NT		NT	重要種	
4		タカチホヘビ	タカチホヘビ											●			VU		VU	重要種	
5		ナミヘビ	シマヘビ						○		●						VU	要	NT	重要種	
6			アオダイショウ	○				○			●						NT	要	NT	重要種	
7			ジムグリ	○		○											VU		VU	重要種	
8			ヒバカリ			○		○				●					NT	NT	NT	重要種	
9			ヤマカガシ		○	○			○			●	●				EN	要	VU	重要種	
季節別種数合計				3種	3種	4種	2種	2種	4種	1種	5種	4種	1種	1種				9種	5種	9種	
年間合計					5種			6種				8種					0種	0種	0種		

※10月は陸産貝類調査時の確認種。

【選定基準】

文化財保護法・・・「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)

〔特天〕 特別天然記念物 〔天〕天然記念物

種の保存法・・・『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)』

〔国内〕 国内希少野生動植物種

環境省・・・『環境省レッドリスト2020(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)』(環境省,令和2年3月27日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔LP〕絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020南多摩・・・『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)2020年版ー』(東京都環境局自然環境部,令和3年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

神奈川・・・『神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006』(神奈川県立生命の星・地球博物館,平成18年7月15日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔要〕要注意種 〔注〕注目種 〔減〕減少種 〔希〕希少種

東京都2010南多摩・・・『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)2010年版』(東京都環境局自然環境部,平成22年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

(2) 重要種

確認種すべてが重要種に該当した。表 2-10 に重要種リストを示す。

R04 の新規重要種はニホンヤモリ、タカチホヘビの 2 種、過年度 (H22～R01) に確認されたが今年度確認されなかった重要種はジムグリの 1 種、継続して確認された重要種はヒガシニホントカゲなど 6 種であった。

表 2-10 爬虫類 重要種リスト ■：網掛けは R04 確認

No.	目名	科名	種名	H22			H31			R3-R4					選定基準					備考	
				春	夏	秋	4月	5月	6月	3月	4月	6月	7月	10月 [※]	文化財 保護法	種の 保存法	環境省	東京都 2020 南多摩	神奈川県		東京都 2010 南多摩
1	有鱗目	ヤモリ	ニホンヤモリ								●	●					*	*	重要種		
2		トカゲ	ヒガシニホントカゲ	○	○		○		○	●	●	●					VU	要	VU	重要種	
3		カナヘビ	ニホンカナヘビ		○	○	○		○		●						NT		NT	重要種	
4		タカチホヘビ	タカチホヘビ											●			VU		VU	重要種	
5		ナミヘビ	シマヘビ						○		●						VU	要	NT	重要種	
6			アオダイショウ	○				○			●						NT	要	NT	重要種	
7			ジムグリ	○		○											VU		VU	重要種	
8			ヒバカリ			○		○				●					NT	NT	NT	重要種	
9			ヤマカガシ		○	○			○			●	●				EN	要	VU	重要種	
季節別種数合計				3種	3種	4種	2種	2種	4種	1種	5種	4種	1種	1種	0種	0種	0種	9種	5種	9種	
年間合計					6種			6種				8種									

※10月は陸産員類調査時の確認種。

【選定基準】

文化財保護法…「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)

〔特天〕特別天然記念物 〔天〕天然記念物

種の保存法…『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)』

〔国内〕国内希少野生動植物種

環境省…『環境省レッドリスト2020(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)』(環境省 令和2年3月27日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔LP〕絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020南多摩…『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト(本土部)2020年版～』(東京都環境局自然環境部 令和3年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

神奈川県…『神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006』(神奈川県立生命の星・地球博物館 平成18年7月15日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔要〕要注意種 〔注〕注目種 〔減〕減少種 〔希〕希少種

東京都2010南多摩…『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト(本土部)～2010年版』(東京都環境局自然環境部 平成22年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

今年度(R04)確認された重要種を以下に示す。

1) ニホンヤモリ

民家をはじめとした建築物に主に生息。昆虫などの小型無脊椎動物を主に食べる。

2) ヒガシニホントカゲ

低地から高地まで生息。昆虫などの小型無脊椎動物を主に食べる。6月の梅雨に入ると産卵。メスは巣で卵の世話をする。7月下旬頃にふ化個体が現れる。

3) ニホンカナヘビ

主に昆虫、クモ類を食べ、陸生甲殻類なども食べる。とくに巣穴はなく、落ち葉や草むらあいで生活する。

4) タカチホヘビ

夜行性で、かつ湿潤な土壌中やガレ場など半地中生活を送るため、一般に確認されにくいヘビである。

5) シマヘビ

林内などより開けた太陽の当たる環境を好む。主に昼行性で動きは速い。トカゲやカエルを中心にさまざまな脊椎動物を食べる。

6) アオダイショウ

鳥獣を主食とし、幼体はカエルやトカゲも食べる。

7) ヒバカリ

森林から草地、水田から畑まで幅広い環境に生息し、カエル、ミミズを食べるほか、水にもよく入り小魚を食べる。

8) ヤマカガシ

平地から山地まで生息し、主に昼間に活動。主にカエルを捕食。頸部に頸腺毒、上顎後方にデュベルノイ腺毒をもつ。

2.5 両生類

(1) 確認状況

今年度調査では合計 10 種の両生類が確認された。表 2-11 に確認種リストを示す。

両生類では流水域と止水域の両環境が存在することを反映して、沢筋ではタゴガエルやツチガエル、ため池等ではモリアオガエルやヤマアカガエル等が確認された。

また、アズマヒキガエル、タゴガエル、アカガエル属の一種(ニホンアカガエル又はヤマアカガエル)、モリアオガエルの産卵が確認された。

表 2-11 両生類リスト ■：網掛けは R04 確認

No.	目名	科名	種名	選定基準												備考						
				H22			H30		H31			R3-R4			文化財 保護法		種の 保存法	環境省	東京都 2020 南多摩	神奈川県	東京都 2010 南多摩	
1	有尾	イモリ	アカハライモリ	○		○		○	○			●	●			NT	EN	CR+EN	EN	重要種		
2	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル	○	○			○		○		●					VU	要		重要種		
3		アマガエル	ニホンアマガエル					○					●				VU		VU	重要種		
4		アカガエル	タゴガエル	○	○	○	○	○		○		●					VU		VU	重要種		
5			ニホンアカガエル									●					EN	VU	EN	重要種		
6			ヤマアカガエル	○	○	○	○			○	○	●	●	●			EN		EN	重要種		
7			アカガエル属の一種※1									●					EN/EN	VU/	EN/EN	重要種		
8			ツチガエル	○	○	○	○				○		●	●			CR	要	CR	重要種		
9		アオガエル	シュレーゲルアオガエル						○	○	○						VU	要	VU	重要種		
10			モリアオガエル		○									●					NT	重要種		
11			無尾目の一種※2						○													
季節別種数合計				5種	6種	4種	4種	1種	6種	3種	5種	3種	5種	6種			0種	0種	1種	10種	7種	9種
年間合計					7種			4種		8種				10種								

※1: 卵塊の確認(ニホンアカガエル、ヤマアカガエルのいずれかと考えられる)、※2: 幼生の確認

【選定基準】

文化財保護法…「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)

〔特天〕特別天然記念物 〔天〕天然記念物

種の保存法…「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)」

〔国内〕国内希少野生動植物種

環境省…「環境省レッドリスト2020(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)」(環境省 令和2年3月27日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔LP〕絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020南多摩…「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)2020年版ー」(東京都環境局自然環境部 令和3年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

神奈川県…「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館 平成18年7月15日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔要〕要注意種 〔注〕注目種 〔減〕減少種 〔希〕希少種

東京都2010南多摩…「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)2010年版」(東京都環境局自然環境部 平成22年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

(2) 重要種

確認種すべてが重要種に該当した。表 2-12 に重要種リストを示す。

R04 の新規重要種はニホンアカガエル、過年度(H22~R01)に確認されたが今年度確認されなかった重要種は0種、継続して確認された重要種はモリアオガエルなど8種であった。なお、有識者よりタゴガエルやモリアオガエルは人為的に持ち込まれた個体が繁殖するケースが知られているので、DNA等を調べることも今後の課題であるのご助言いただいた。

表 2-12 両生類 重要種リスト ■：網掛けは R04 確認

No.	目名	科名	種名	H22			H30		H31			R3-R4			選定基準						備考
				春	夏	秋	4月	3月	4月	5月	6月	3月	4月	6月	文化財 保護法	種の 保存法	環境省 2020 年多摩	東京都 2020 年多摩	神奈川県 2010 年多摩	東京都 2010 年多摩	
1	有尾	イモリ	アカハライモリ	○		○	○		○	○			●	●			NT	EN	CR+EN	EN	重要種
2	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル	○	○				○		○		●					VU	要		重要種
3		アマガエル	ニホンアマガエル		○				○					●				VU		VU	重要種
4		アマガエル	タゴガエル	○	○	○	○	○	○		○		●					VU		VU	重要種
5			ニホンアカガエル									●						EN	VU	EN	重要種
6			ヤマアカガエル	○	○	○	○			○	○		●	●				EN		EN	重要種
7			アカガエル属の一種※1									●						EN/EN	VU/	EN/EN	重要種
8			ツチガエル	○	○	○	○				○		●	●				CR	要	CR	重要種
9		アマガエル	シュレーゲルアオガエル						○	○	○			●				VU	要	VU	重要種
10			モリアオガエル		○									●				NT	要	NT	重要種
季節別種数合計				5種	6種	4種	4種	1種	5種	3種	5種	3種	5種	6種							
年間合計				7種			4種				7種			10種							

※1：卵塊の確認（ニホンアカガエル、ヤマアカガエルのいずれかと考えられる）、※2：幼生の確認

【選定基準】

文化財保護法・・・「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)

〔特天〕特別天然記念物 〔天〕天然記念物

種の保存法・・・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年法律第75号)〕

〔国内〕国内希少野生動植物種

環境省・・・「環境省レッドリスト2020(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)」(環境省、令和2年3月27日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔LP〕絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020年多摩・・・「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)2020年版ー」(東京都環境局自然環境部、令和3年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

神奈川県・・・「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館、平成18年7月15日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔要〕要注意種 〔注〕注目種 〔減〕減少種 〔希〕希少種

東京都2010年多摩・・・「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)～2010年版」(東京都環境局自然環境部、平成22年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

今年度(R04)確認された重要種を以下に示す。

1) アカハライモリ

水田や池、小川などに生息。背が黒く、腹が赤い。主にミミズ、昆虫、カエルの幼生などの小動物を食べる。

2) アズマヒキガエル

海岸近くの低地から高山まで、幅広い環境に生息。危険を感じると背面から毒液を分泌する。

3) ニホンアマガエル

主に昆虫やクモ類を食べる。関東では 5～7 月に水田や湿地などの浅い止水面に数ずつの卵を産む。

4) タゴガエル

山地にふつうにみられ、小渓流の縁にある岩のすきまや地下にある伏流水中に産卵する。幼生は卵黄を消費するだけで変態できる。

5) ニホンアカガエル

平地ないしは丘陵地に生息。主に水田や湿地などの日当たりのよい浅い止水に産卵。

6) ヤマアカガエル

体色は褐色、赤褐色または暗褐色で変化に富む。池や水田、また道ばたの浅い水たまりなどでも産卵。

7) ツチガエル

背面は灰褐色で、いぼがたくさんあり、悪臭のする粘液を分泌。都市部の人工池から水田、河川、山間の溪流、湿原までの水辺の近くに生息。

8) シュレーゲルアオガエル

丘陵地や平野の水辺に生息。特に水田の周囲に多い。大型草本や樹木の上で暮らし、小昆虫類を捕食。途中に白い泡状の卵塊を産む。

9) モリアオガエル

山間部から平野部までの森林に生息。樹上で暮らし、小昆虫類を捕食。5～7月に池や沼、水田などで繁殖。樹木の枝先などに白い泡状の卵塊を産む。

2.6 昆虫類・クモ類

(1) 確認状況

今年度調査では合計 1,178 種の昆虫類・クモ類が確認された。確認種リストは資料編に示す。

昆虫類では、ムカシヤンマが確認された。ムカシヤンマは年間を通じて湧水が滴り落ちる崖地や斜面の指標になり得るトンボであり、大戸緑地を特徴づける昆虫類の一つである。

この他、各環境を反映して広葉樹林ではアオオニグモ、ミンミンゼミ、アオオサムシ、ノコギリクワガタ、オオミズアオ等、スギ・ヒノキ植林ではアカスジキンカメムシ、ヤニサシガメ等、草地ではオオトリノフンダマシ、ハナグモ、ウスイロササキリ、マメコガネ、キタキチョウ、オオハナアブ等、裸地・畑地ではワスレナグモ、ハタケグモ、トノサマバッタ、ノミバッタ、ナミハンミョウ等、止水域やその周辺ではキバラコモリグモ、クロイトトンボ、ギンヤンマ、ヤスマツアメンボ等、流水域やその周辺ではヨリメグモ、オジロサナエ、オニヤンマ、シマアメンボ等の昆虫類・クモ類が確認された。

(2) 重要種

確認種の内、重要種は 49 種であった。表 2-13 に重要種リストを示す。

R04 の新規重要種はワスレナグモ、ホソミイトトンボ、ムカシヤンマなど 32 種、過年度 (H22～R01) に確認されたが今年度確認されなかった重要種はコシボソヤンマ、オオムラサキ、オオトックリゴミムシなど 17 種、継続して確認された重要種はモノサシトンボ、ルリボシヤンマ、オオアメンボ、ミヤマクワガタなど 17 種であった。

表 2-13 昆虫類・クモ類 重要種リスト

目名	科名	種名	H22	R3-R4				選定基準						備考
				4月	5月	7月	9月	文化財 保護法	種の 保存法	環境省	東京都 2020	神奈川県	東京都 2010 南多摩	
クモ目	ジグモ科	ウスレナグモ		●		●				NT	南NT		NT	
	カネコトタテグモ科	カネコトタテグモ		●						NT	南VU		VU	
	トタテグモ科	キノボリトタテグモ		●						NT	南NT		NT	
		キシノウエトタテグモ		●						NT	南NT		NT	
	コガネグモ科	チュウガタコガネグモ			●						南DD			
		トゲグモ				●	●						DD	旧レッドのみ
トンボ目	アオイトトンボ科	アオイトトンボ					●				多VU,本VU		NT	旧レッドのみ
	イトトンボ科	ホソミイトトンボ		●	●	●	●					DD		
		キイトトンボ				●	●				多EN,本EN	EN	NT	
		クロイトトンボ				●	●					要		
	モノサシトンボ科	モノサシトンボ	○			●	●				多VU,本NT	NT	DD	
	カワトンボ科	ハグロトンボ	○				●					要		
	ヤンマ科	ルリボシヤンマ	○				●				多VU,本VU		NT	
		コシボシヤンマ	○								多VU,本EN	要	VU	
		ミルンヤンマ	○				●					要		
		サラヤンマ			●						多VU,本EN	EN	EN	
	サナエトンボ科	ヤマサナエ	○		●						多VU,本VU	要	VU	
		コサナエ	○	●	●						多EN,本CR	EN	CR	
	ムカシヤンマ科	ムカシヤンマ			●						多EN,本EN	VU	EN	
	エゴトンボ科	タカネトンボ	○				●					要		
	トンボ科	ハラビロトンボ	○								多NT,本NT	要	NT	
		シオヤトンボ		●	●						多NT,本NT	要		
		ナツアカネ	○									要		
		マユタテアカネ	○			●	●				多NT,本NT	要		
バッタ目		ミヤマアカネ	○				●				多NT,本VU	NT		
	キリギリ科	ヒガシキリギリス	○			●						要		
	ケラ科	ケラ	○			●						要		
	コオロギ科	ヒメコオロギ					●						DD	
		クマズムシ	○										DD	旧レッドのみ
	ヒメバリモドキ科	ヤチズ	○				●						DD	旧レッドのみ
	バッタ科	ショウリョウバッタモドキ				●	●					要	VU	
	イナゴ科	ハネナガイナゴ					●					NT		
	カメムシ目	ツノカメムシ科		●								DD		
		アメシロカメムシ科	○	●		●	●				多NT,本NT	NT		
ヘビトンボ目	ヘビトンボ科	ヤマトクロスヘビトンボ			●						多NT,本NT			
チョウ目	セセリチョウ科	アオバセセリ	○									要		
		ミヤマセセリ		●							多NT,本NT			
		ホソバセセリ	○								多NT,本NT	VU	*	
		オオチャバネセセリ				●					多NT,本NT	VU		
	シジミチョウ科	コヅバメ		●							多NT,本NT			
	タテハチョウ科	ミスジチョウ			●	●					多NT,本NT			
		オオムラサキ	○								多NT,本NT	NT		
	アゲハチョウ科	ミヤマカラスアゲハ		●		●				NT	多NT,本NT	NT		
	ヤマユギ科	クスサン	○								多NT,本NT			
	ヤガ科	ゴボウトガリヨトウ	○								多NT,本NT			
	ハエ目	クサアブ科	○							DD	多DD,本DD			
		ミスアブ科	○								多NT,本NT			
	ムシヒキアブ科	オオイシアブ		●	●							*		旧レッドのみ
コクチュウ目	ハナアブ科	ヒメハチモドキハナアブ			●							DD		
	オサムシ科	アトモンコミズギワゴミムシ	○									NT		
		オグラヒラタゴミムシ	○									VU		
		オオトクリゴミムシ	○							NT		NT		
	ハンミョウ科	エリザハンミョウ	○			●							NT	旧レッドのみ
		ナミハンミョウ		●	●	●	●				多NT,本NT			
	ガムシ科	マメガムシ					●				多-本CR		—*	
		ヒメガムシ	○								多-本VU		DD	
	クワガタムシ科	ミヤマクワガタ	○				●					要	NT	
	タマムシ科	ヤマトタマムシ	○			●	●					要		
	ジョウカイボン科	キロジョウカイ		●							多NT,本NT	希		
	カミキリムシ科	タケトラカミキリ	○										NT	旧レッドのみ
		ネジロカミキリ		●							多NT,本NT		NT	
ハチ目	ハムシ科	アワクビソハムシ	○			●	●					NT		
	ゾウムシ科	フタホシカギアシゾウムシ			●							NT		
	ヤドリキバチ科	トサヤドリキバチ	○							DD				
	アリ科	トゲアリ	○	●		●	●			VU				
9目	44科	66種	34種	17種	14種	19種	23種	0種	0種	9種	36種	36種	27種	

※マメガムシは東京都2010の南多摩では[-データ無し]となっているが、本土部では[VU絶滅危惧Ⅱ類]となっている。

【選定基準】

文化財保護法…『文化財保護法』(昭和25年 法律第214号)

〔特天〕特別天然記念物 〔天〕天然記念物

種の保存法…『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)』

〔国内〕国内希少野生動植物種

環境省…『環境省レッドリスト2020(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)』(環境省,令和2年3月27日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔LP〕絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020南多摩…『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト(本土部)2020年版～』(東京都環境局自然環境部,令和3

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

東京都2010南多摩…『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト(本土部)～2010年版』(東京都環境局自然環境部,平成2

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

神奈川県…『神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006』(神奈川県立生命の星・地球博物館,平成18年7月15日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔要〕要注意種 〔注〕注目種 〔減〕減少種 〔希〕希少種

今年度(R04)確認された重要種を以下に示す。

1) ワスレナグモ

本州から九州にかけて分布する。本来は開けた草原に生息するが、市街地でも公園の芝生等で見られることがある。

2) カネコッタテグモ

本州に分布し、低山地から平地の樹林に生息する。地中に管状の穴を掘り、入口に両開きの扉をつける。

3) キノボリトタテグモ

本州から南西諸島にかけて分布する。山地から平地の樹林に生息し、市街地でも社寺林等で見られる。

4) キシノウエトタテグモ

本州から九州にかけて分布する。山地から平地の樹林に生息し、市街地でも社寺林や公園、人家の庭等でみられる。地中に比較的短い管状の巣をつくり、入口に扉をつける。

5) チュウガタコガネグモ

本州から九州にかけて分布する。山地から平地に生息し、草丈の低い草本間に造網する。

6) トゲグモ

本州から九州にかけて分布し、低山地から平地の林縁の樹間に見られる。

7) コアシダカグモ

本州から九州にかけて分布し、低山地から平地の樹林に生息する。昼間は物陰に隠れて夜間に獲物を狩る習性をもつ。

8) アオイトトンボ

北海道から九州にかけて分布し、丘陵地から平地の水生植物の豊富な池沼や水溜まりのある湿地に生息する。

9) ホソミイトトンボ

本州（栃木県以南）から九州にかけて分布し、丘陵地の池や湿地に見られる。分布北限となる関東地方での記録は散発的である。

10) キイトトンボ

本州に分布し、丘陵地から平地の水生植物の豊富な池沼や水溜まりのある湿地に生息し、河川敷の池で見られることもある。

11) クロイトトンボ

北海道から九州にかけて分布し、平野部の面積が広く開放的な池沼を好む。

12) モノサシトンボ

北海道から九州にかけて分布し、丘陵地から平地の樹木に覆われた池沼に生息する。

13) ハグロトンボ

本州から九州にかけて分布する。丘陵地から平地の水生生物が繁茂する河川や水路など、広範な流水環境に生息する。

14) ルリボシヤンマ

北海道から四国にかけて分布し、水生植物の豊富な小規模な池沼や水溜まりのある湿地に生息する。

15) ミルンヤンマ

北海道南部から九州にかけて分布する。やや山地性で、低山地から丘陵地の林に覆われた比較的小規模な河川や水路に生息する。

16) サラサヤンマ

北海道から九州にかけて分布する。丘陵地から平地の林に覆われた湿地、主として谷戸の湿地に生息する。

17) ヤマサナエ

本州から九州にかけて分布する。流れが緩やかな河川や水路などに生息し、特に谷戸の水路など小規模な砂泥底の流れを好む。

18) コサナエ

北海道から本州にかけて分布し、丘陵地から平地の樹木に覆われた池沼や水溜まりのある湿地に生息する。

19) ムカシヤンマ

本州、九州に分布し、多摩地域では低山地から丘陵地に局地的に分布する。年間通じて湧水が滴り落ちる崖地や斜面に生息し、コケ類が繁茂するような場所を好む。

20) タカネトンボ

北海道から九州にかけて分布し、低山地から丘陵地の樹木に覆われた池沼に生息する。小規模な滞水にも見られ、貯水槽などの人工的な水域でもしばしばみられる。

21) シオヤトンボ

北海道から九州にかけて分布し、丘陵地から平地の湿田や植生が豊富な草丈の低い湿地に生息する。

22) マユタテアカネ

北海道から南西諸島にかけて分布し、低山地から平地のため池、湿田、湿地、河川敷の水溜まり等、広範な止水域に生息する。

23) ミヤマアカネ

北海道から九州にかけて分布し、丘陵地から平地の緩やかな砂泥底の細流に生息する。

24) ヒガシキリギリス

北海道をのぞく東日本に分布し、丘陵地から低地の草地に生息する。

25) ケラ

北海道から九州にかけて分布し、湿地や水田等に穴を掘り、地中に生息する。

26) ヒメコオロギ

本州から九州にかけて分布し、低山地から平地の明るく開けた湿地やその周辺の湿性草地に生息する。

27) ヤチスズ

北海道から九州にかけて分布し、丘陵地から平地の湿地や水田に生息する。明るく開けた湿地、水田から、樹陰で常時暗い湿地まで、幅広い湿地環境に生息する。

28) ショウリョウバッタモドキ

本州から南西諸島にかけて分布し、低山地から平地のイネ科高茎草地に生息する。小規模なチガヤ草地でも見られる場合がある。

29) ハネナガイナゴ

本州から九州にかけて分布し、水田やその周辺に生息し、イネ科植物を採餌する。

30) フトハサミツノカメムシ

本州から九州にかけて分布する。山地に生息し、サクラ等のバラ科植物に寄生する。

31) オオアメンボ

本州から九州にかけて分布し、低山地から平地の緩やかな流れや池沼に生息する。

32) ヤマトクロスジヘビトンボ

本州から南西諸島にかけて分布し、低山地から平地の湧水のある河川沿いの雑木林や沢沿いの草地に生息する。

33) ミヤマセセリ

本州から九州にかけて分布する。山地から低地の落葉広葉樹林や開けた雑木林等に生息し、日当たりの良い場所を好む。

34) オオチャバネセセリ

北海道から九州にかけて分布する。山地の草原や疎林的環境、谷戸の草地や雑木林、住宅地の庭や公園とどこにでも生息していたが、近年は全国的に減少傾向にある。

35) コツバメ

北海道から九州にかけて分布し、丘陵地等の多様な植物が生育する雑木林に生息する。

36) ミスジチョウ

北海道から九州にかけて分布し、山地から平地の樹林やカエデ類の生育地でよく見られる。春から夏に発生し、幼虫はカエデ類を食べる。

37) ミヤマカラスアゲハ

北海道から九州にかけて分布し、山地から平地の多様な植物が生育する樹林環境に生息する。春と夏に年2回発生し、幼虫はキハダやカラスザンショウ等を食べる。

38) オオイシアブ

本州から九州にかけて分布し、多摩地域では山地から丘陵地の樹林に生息する。幼虫は朽木に生息し、成虫は5～9月に出現する。

39) ヒメハチモドキハナアブ

本州から九州にかけて分布し、低山地に生息する。樹林の林縁に積まれた木材周辺でまとまって見られることもある。

40) エリザハンミョウ

北海道から九州にかけて分布し、河原等の水溜まり周辺等、やや湿った砂地を好む。

41) ナミハンミョウ

本州から南西諸島にかけて分布し、成虫は開けた裸地や境内等で小昆虫を捕食する。幼虫は地中に縦長の穴を掘り、通りかかった小昆虫を捕食する。

42) マメガムシ

本州から南西諸島にかけて分布し。丘陵地から平地の池沼や湿地、水田に生息する。

43) ミヤマクワガタ

北海道から九州にかけて分布し、多摩地域では山地から丘陵地の雑木林等に生息する。

44) ヤマトタマムシ

本州から南西諸島にかけて分布し、山地から低地のエノキ、ケヤキ、クヌギなどの広葉樹林に生息する。

45) キイロジョウカイ

関東地方と福島県の一部に分布する。丘陵地・台地の谷戸環境に生息し、成虫は5～6月に発生する。

46) ネジロカミキリ

北海道から九州にかけて分布し、山地から平地の落葉広葉樹林に生息する。タラノキやハリギリ等のウコギ科を寄主植物とし、成虫は主にタラノキ枯死部で見つかる。

47) アワクビボソハムシ

本州から九州にかけて分布し、湿地に生息する。食草はエノコログサ、メヒシバ等でアワ、ヒエ、キビ等にも害を及ぼすこともある。

48) フタホシカギアシゾウムシ

本州から南西諸島にかけて分布し、湿地や池周辺に生息する。近縁種同様に湿生植物を食草としていて考えられる。

49) トゲアリ

本州から九州にかけて分布し、クヌギなどの雑木林で見つかることが多い。クロオオアリやムネアカオオアリなどの巣に一時的寄生をするが、女王を殺して巣の乗っ取りに成功する確率は非常に低いとされる。クヌギやコナラの樹皮のすきまや樹液痕周辺にコロニーを作っているのが見られることもある。

2.7 陸産貝類

(1) 確認状況

今年度調査では合計 22 種の陸産貝類が確認された。表 2-14 に確認種リストを示す。

陸産貝類調査は今年度初めて実施した。その結果、雑木林では人為的攪乱の少ない林床を好むツメギセルやコケラマイマイ、ヒメハリマキビ等、スギ・ヒノキ植林ではウラジロベッコウ、オオケマイマイ等、草地ではオカチョウジガイ等が確認された。

表 2-14 陸産貝類リスト ※R04 初調査

No.	目名	科名	和名	R04調査時期		選定基準					備考
				7月	10月	文化財 保護法	種の 保存法	環境省	東京都 2020 南多摩	東京都 2010 南多摩	
1	ヤマタニシ	ヤマタニシ	ムシオイ	●	●						
2			ミジンヤマタニシ	●							
3		ゴマガイ	ヒダリマキゴマガイ	●							
4	マイマイ	アフリカマイマイ	オカチョウジガイ	●							
5		タワラガイ	タワラガイ	●	●						
6		キセルガイ	ツメギセル	●	●			NT	VU	VU	重要種
7			ヒカリギセル	●	●						
8		シタラ	ヒメハリマキビ		●			NT	NT	-	重要種
9			マルシタラ	●							
10			ウメムラシタラ		●			NT	NT	-	重要種
11			オオウエキビ	●	●			DD	NT	-	重要種
12			ヒメカサキビ	●	●			NT	NT	-	重要種
13		ベッコウマイマイ	ウラジロベッコウ	●	●						
14		ナメクジ	ヤマナメクジ	●	●						
15		オランダマイマイ	エンズイマイマイ	●							
16			コケラマイマイ	●				NT	VU	NT	重要種
17			オオケマイマイ	●	●				*		重要種
18			ミスジマイマイ	●	●						
19			ヒダリマキマイマイ	●							
20			キヌヒロウドマイマイ	●	●			NT	NT	DD	重要種
21			ニッポンマイマイ	●	●						
22			コベソマイマイ		●				*		重要種
	2目	9科	22種	19種	15種	0種	0種	7種	9種	7種	
				22種		9種					

【選定基準】

文化財保護法・・・「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)

[特天] 特別天然記念物 [天] 天然記念物

種の保存法・・・『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)』

[国内] 国内希少野生動植物種

環境省・・・『環境省レッドリスト2020(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)』(環境省, 令和2年3月27日)

[EX] 絶滅 [EW] 野生絶滅 [CR+EN] 絶滅危惧Ⅰ類 [CR] 絶滅危惧ⅠA類 [EN] 絶滅危惧ⅠB類

[VU] 絶滅危惧Ⅱ類 [NT] 準絶滅危惧 [DD] 情報不足 [LP] 絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020南多摩・・・『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト(本土部)2020年版～』(東京都環境局自然環境部, 令和3年3月)

[EX] 絶滅 [EW] 野生絶滅 [CR+EN] 絶滅危惧Ⅰ類 [CR] 絶滅危惧ⅠA類 [EN] 絶滅危惧ⅠB類

[VU] 絶滅危惧Ⅱ類 [NT] 準絶滅危惧 [DD] 情報不足 [*] 留意種

神奈川県・・・『神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006』(神奈川県立生命の星・地球博物館, 平成18年7月15日)

[EX] 絶滅 [EW] 野生絶滅 [CR+EN] 絶滅危惧Ⅰ類 [CR] 絶滅危惧ⅠA類 [EN] 絶滅危惧ⅠB類

[VU] 絶滅危惧Ⅱ類 [NT] 準絶滅危惧 [DD] 情報不足 [要] 要注意種 [注] 注目種 [減] 減少種 [希] 希少種

東京都2010南多摩・・・『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト(本土部)～2010年版』(東京都環境局自然環境部, 平成22年3月)

[EX] 絶滅 [EW] 野生絶滅 [CR+EN] 絶滅危惧Ⅰ類 [CR] 絶滅危惧ⅠA類 [EN] 絶滅危惧ⅠB類

[VU] 絶滅危惧Ⅱ類 [NT] 準絶滅危惧 [DD] 情報不足 [*] 留意種

(2) 重要種

重要種はツメギセル、ヒメハリマキビ、ウメムラシタラなど9種であった。表 2-15 に重要種リストを示す。

陸産貝類調査は今年度が初めての実施であるため、いずれも新規確認種となった。

表 2-15 陸産貝類 重要種リスト ※R04 初調査

目名	科名	和名	R04調査時期		選定基準					備考
			7月	10月	文化財 保護法	種の 保存法	環境省	東京都 2020 南多摩	東京都 2010 南多摩	
マイマイ	キセルガイ シタラ	ツメギセル	●	●			NT	VU	VU	重要種
		ヒメハリマキビ		●			NT	NT	-	重要種
		ウメムラシタラ		●			NT	NT	-	重要種
		オオウエキビ	●	●			DD	NT	-	重要種
		ヒメカサキビ	●	●			NT	NT	-	重要種
	ナンバンマイマイ	コケラマイマイ	●				NT	VU	NT	重要種
		オオケマイマイ	●	●				*		重要種
		キヌビロウドマイマイ	●	●			NT	NT	DD	重要種
		コベソマイマイ		●				*		重要種
1目	3科	9種	6種	8種	0種	0種	7種	9種	7種	
			9種				9種			

【選定基準】

文化財保護法・・・「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)

〔特天〕特別天然記念物 〔天〕天然記念物

種の保存法・・・『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)』

〔国内〕国内希少野生動植物種

環境省・・・『環境省レッドリスト2020(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)』(環境省,令和2年3月27日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔LP〕絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020南多摩・・・『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)2020年版ー』(東京都環境局自然環境部,令和3年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

神奈川県・・・『神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006』(神奈川県立生命の星・地球博物館,平成18年7月15日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔要〕要注意種 〔注〕注目種 〔減〕減少種 〔希〕希少種

東京都2010南多摩・・・『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)ー2010年版』(東京都環境局自然環境部,平成22年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

今年度(R04)確認された重要種を以下に示す。

1) ツメギセル

日本固有種。東京都(西部)、神奈川県、静岡県に分布し、主に朽ち木の下や落葉堆積中に生息する。

2) ヒメハリマキビ

日本固有種。本州の中部地方以南に分布する。主として落葉広葉樹林の落葉下に生息する。

3) ウメムラシタラ

本州の関東地方から九州にかけて分布し、主に広葉樹林の落葉下に生息する。

4) オオウエキビ

本州の中部地方以南、四国、九州に分布し、広葉樹林などの落葉下に生息する。

5) ヒメカサキビ

日本国内に広く分布し、主に本州、四国、九州に分布記録がある。海岸林や低山地、山麓などの環境に生息する種である。スギ植林、広葉樹林などの林床の落葉堆積下に生息する。常緑樹林の若干乾き気味の林床の落葉堆積下にも見られる。

6) コケラマイマイ

本州（関東西部～中部地方東部）に分布し、人為的かく乱の少ない樹林の倒木や落葉下に生息する。

7) オオケマイマイ

本州、四国（高知県を除く）に分布。低山の林内の草本や落葉下、社叢の石垣等に生息する。

8) キヌビロウドマイマイ

日本固有種。東北地方から中部・近畿地方にかけて広く分布し、一部、中国地方や四国のごく一部まで分布が確認されている。丘陵部から山地にかけての湿度が保たれた自然林もしくは社寺林内の、主に朽ち木や瓦などが積み重なった下面に潜んでいる。春から秋の降雨後には、陸産貝類の多くは林床上を匍匐するが、日中には地表に殆ど現れない。主に分解の進んだ落葉を摂食すると考えられるが、秋にはキノコ類を食べる個体が確認される例も多い。

9) コベソマイマイ

本州（関東以西）、四国、九州に広く分布する。主として山地の森林や林縁部に生息し、落葉広葉樹林にもスギの植林地にも見られる。樹上には登らず地上性である。

2.8 魚 類

(1) 確認状況

今年度調査では合計 8 種の魚類が確認された。表 2-16 に確認種リストを示す。

魚類では湧水に依存するとされるホトケドジョウの他、河川上流域を主な生息域とするアブラハヤやカジカが確認された。なお、河川 1、河川 3、河川 4 は上流域から源流域で、水面幅 1m に満たない浅く流れの緩やかな礫底の平瀬が優占する環境であり、河川 2 はコンクリートの小水路で、湧水起源と思われる谷戸奥からの浸みだし水が湛水し、泥や落葉が堆積した環境であった。池 1 と池 3 は、樹林内の暗い池で、水深が深く水際植生のない落葉が堆積した環境で、池 2 と池 4 は谷戸の谷底に位置し、水生植物が生育する明るくて浅い泥底の環境であった。河川では淵を中心にアブラハヤ、ホトケドジョウ等が確認され、瀬では河川 4 でカジカが確認された。一方池では池 1 でコイ、池 2 でドジョウ属、池 3 でホトケドジョウが確認されたのみであった。ただし、池 3 のホトケドジョウは秋季に 50 個体がまとめて確認され、ホトケドジョウが生息するのに適した環境になっていると考えられる。

表 2-16 魚類リスト ■：網掛けは R04 確認

No.	目名	科名	種名	H22			H30	R3-R4			選定基準						備考
				春	夏	秋	4月	2月	6月	9月	文化財 保護法	種の 保存法	環境省	東京都 2020 南多摩	神奈川県	東京都 2010 南多摩	
1	コイ	コイ	コイ(改良品種型)						●	●							
2			カワムツ					●	●	●							
3			アブラハヤ	○	○	○		●	●	●				VU	NT	NT	重要種
4		ドジョウ	ドジョウ	○		○				●			NT	DD			重要種
5			ドジョウ属の一種※					●	●	●			NT/DD	DD/DD			重要種
6			ヒガシマドジョウ			○		●	●	●				NT	NT	VU	重要種
7		フナドジョウ	ホトケドジョウ	○	○	○	○	●	●	●			EN	EN	EN	VU	重要種
8	カジガ	カジカ	カジカ	○	○	○			●	●			NT	EN	VU	CR+EN	重要種
9	スズキ	ハダ	トウヨシノボリ			○								DD			重要種
季節別種数合計				4種	3種	6種	1種	5種	7種	8種	0種	0種	4種	7種	4種	4種	
年間合計				6種				8種			7種						

※「ドジョウ属」は成熟した雄によって種の区別が可能であるが、確認個体は雌や幼魚であった。確認個体は、選定基準に含まれているドジョウかキタドジョウのどちらかに該当するため、両種の評価を併記した。

【選定基準】

文化財保護法・・・「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)

〔特天〕特別天然記念物 〔天〕天然記念物

種の保存法・・・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)」

〔国内〕国内希少野生動植物種

環境省・・・「環境省レッドリスト2020(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)」(環境省,令和2年3月27日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔LP〕絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020南多摩・・・「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)2020年版」(東京都環境局自然環境部,令和3年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

神奈川県・・・「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館,平成18年7月15日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔要〕要注意種 〔注〕注目種 〔減〕減少種 〔希〕希少種

東京都2010南多摩・・・「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)～2010年版」(東京都環境局自然環境部,平成22年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

(2) 重要種

確認種の内、重要種は6種であった。なお、ドジョウまたはキタドジョウのいずれかと考えられるドジョウ属の雌や幼魚も重要種として取り扱った。表 2-17 に重要種リストを示す。

重要種の内、R04 の新規確認種はドジョウ属の1種、過年度（H22～R01）に確認されたが今年度確認されなかった種はトウヨシノボリの1種、継続して確認された重要種はアブラハヤ、ホトケドジョウ、カジカなど5種であった。

表 2-17 魚類 重要種リスト ■：網掛けは R04 確認

目名	科名	種名	H22			H30	R3-R4			選定基準						備考
			春	夏	秋	4月	2月	6月	9月	文化財 保護法	種の 保存法	環境省	東京都 2020 南多摩	神奈川県	東京都 2010 南多摩	
コイ	コイ ドジョウ	アブラハヤ	○	○	○		●	●	●				VU	NT	NT	重要種
		ドジョウ	○		○						NT	DD				重要種
		ドジョウ属の一種※					●	●	●			NT/DD	DD/DD			重要種
		ヒガシシマドジョウ			○		●	●	●				NT	NT	VU	重要種
	フクドジョウ	ホトケドジョウ	○	○	○	○	●	●	●			EN	EN	EN	VU	重要種
カサゴ	カジカ	カジカ	○	○	○			●	●			NT	EN	VU	CR+EN	重要種
スズキ	ハゼ	トウヨシノボリ			○								DD			重要種
季節別種数合計			4種	3種	6種	1種	4種	5種	6種	0種	0種	4種	7種	4種	4種	
年間合計			6種				6種			7種						

※「ドジョウ属」は成熟した雄によって種の区別が可能であるが、確認個体は雌や幼魚であった。確認個体は、選定基準に含まれているドジョウがキタドジョウのどちらかに該当するため、両種の評価を併記した。

【選定基準】

文化財保護法・・・「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)

【特天】特別天然記念物 【天】天然記念物

種の保存法・・・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)」

【国内】国内希少野生動植物種

環境省・・・「環境省レッドリスト2020(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)」(環境省,令和2年3月27日)

【EX】絶滅 【EW】野生絶滅 【CR+EN】絶滅危惧Ⅰ類 【CR】絶滅危惧ⅠA類 【EN】絶滅危惧ⅠB類

【VU】絶滅危惧Ⅱ類 【NT】準絶滅危惧 【DD】情報不足 【LP】絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020南多摩・・・「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)2020年版ー」(東京都環境局自然環境部,令和3年3月)

【EX】絶滅 【EW】野生絶滅 【CR+EN】絶滅危惧Ⅰ類 【CR】絶滅危惧ⅠA類 【EN】絶滅危惧ⅠB類

【VU】絶滅危惧Ⅱ類 【NT】準絶滅危惧 【DD】情報不足 【*】留意種

神奈川県・・・「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館,平成18年7月15日)

【EX】絶滅 【EW】野生絶滅 【CR+EN】絶滅危惧Ⅰ類 【CR】絶滅危惧ⅠA類 【EN】絶滅危惧ⅠB類

【VU】絶滅危惧Ⅱ類 【NT】準絶滅危惧 【DD】情報不足 【要】要注意種 【注】注目種 【減】減少種 【希】希少種

東京都2010南多摩・・・「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)ー2010年版」(東京都環境局自然環境部,平成22年3月)

【EX】絶滅 【EW】野生絶滅 【CR+EN】絶滅危惧Ⅰ類 【CR】絶滅危惧ⅠA類 【EN】絶滅危惧ⅠB類

【VU】絶滅危惧Ⅱ類 【NT】準絶滅危惧 【DD】情報不足 【*】留意種

今年度(R04)確認された重要種を以下に示す。

1) アブラハヤ

本州(福井・岡山以北)に分布する。河川の中・上流域の淵や淀みに生息する。多摩川では、本流のほぼ全域が国内外来種のタカハヤまたは交雑種に置き換わり、本種は本流から堰堤や滝などにより隔離された沢などに残存している。。

2) ドジョウ、ドジョウ属の一種

ドジョウは、日本列島のほぼ全土に広く分布するが、北海道全域および南西諸島の一部に分布するものは国内外からの移植に由来すると考えられている。キタドジョウは、生態や生活史について不明な点が多いが、安定して生息が確認されているのは植生が豊富で水温が低い原生的な湿地環境に限られる。現在のところ、北海道と本州東部の限られた地域で見られる。

3) ヒガシシマドジョウ

本州、四国に分布する。河川の中流域の砂礫底に生息する。西多摩では、多摩川と秋川の合流点より上流で普通にみられる。

4) ホトケドジョウ

本州（青森を除く三重・京都・兵庫以北）に分布する。水温が低く流れの緩やかな河川や湿地、水田などに生息する。

5) カジカ

本州、四国、九州に分布する。河川の中・上流域の礫底に生息する。

2.9 底生生物

(1) 確認状況

今年度調査では合計 178 種の底生生物が確認された。確認種リストは資料編に示す。

底生生物調査は今年度初めて実施した。その結果、河川では、平瀬の礫底でオオクママダラカゲロウ、シロハラコカゲロウ、シロタニガワカゲロウ、オジロサナエ、*Diplectrona* 属（シマトビケラ科）などが確認され、砂泥や落葉が堆積した水際の淀みで *Davidius* 属（サナエトンボ科）、*Nemoura* 属（オナシカワゲラ科）、*Neoperla* 属（カワゲラ科）、コバントビケラ、*Phryganopsyche* 属（マルバネトビケラ科）、マルガムシなどが確認された。その他、緩流部の水面ではシマアメンボが確認された。

池では、水際の落葉が堆積した場所で、モノサシトンボ、コサナエ、タカネトンボ、コシアキトンボなどが確認され、水生植物の群落内ではサカマキガイ、マルタンヤンマ、クロスジギンヤンマ、コシマゲンゴロウ、ヒメガムシなどが、植生がほとんどない浅い泥底ではドブシジミ、シオカラトンボ、エサキコミズムシ、マメゲンゴロウなどが確認された。その他、開放水面では、オオアメンボ、アメンボ、ヒメアメンボなどが、薄暗い岸寄りの水面ではヤスマツアメンボが確認された。

(2) 重要種

確認種の内、重要種はサワガニ、モノサシトンボ、ヒメガムシ、ゲンジボタルなど 19 種であった。表 2-18 に重要種リストを示す。

底生動物調査は今年度が初めての実施であるため、いずれも新規確認種となった（昆虫綱の一部を除く）。

表 2-18 底生生物 重要種リスト ※R04 初調査

綱名	目名	科名	和名	R04 調査時期			選定基準						備考
				2月	6月	9月	文化財 保護法	種の 保存法	環境省	東京都 2020	神奈川 2006	東京都 2010 南多摩	
二枚貝	マルスダレガイ	マメシジミ	Pisidium属		●	●				南DD		DD	重要種
軟甲	エビ	サワガニ	サワガニ	●	●	●				南*		*	重要種
昆虫	トンボ(蜻蛉)	モノサシトンボ	モノサシトンボ	●	●	●				多VU,本NT	NT	DD	重要種
			ヤンマ			●					NT	DD	重要種
			オオルリボシヤンマ			●							重要種
			ルリボシヤンマ	●						多VU,本VU		NT	重要種
			コシボシヤンマ		●	●				多VU,本EN	要	VU	重要種
			ミルンヤンマ		●	●					要		重要種
			サナエトンボ	●	●	●				多VU,本VU	要	VU	重要種
			ヒメサナエ	●	●						DD		重要種
			コサナエ	●	●	●				多EN,本CR	EN	CR	重要種
			エゾトンボ		●	●				多NT,本NT	NT	NT	重要種
			タカネトンボ			●					要		重要種
			オオアメンボ		●	●				多NT,本NT	NT		重要種
			アメンボ	●	●						DD		重要種
			ミズムシ(昆)	●	●						DD		重要種
			Sigara属	●	●						DD		重要種
			ヘビトンボ	●	●	●				多NT,本NT			重要種
			センプリ	●		●				多VU,本VU		DD	重要種
			ガムシ			●				多-,本VU		DD	重要種
			ホタル		●					多NT,本NT			重要種
3綱	6目	12科	19種	10種	13種	15種	0種	0種	0種	13種	12種	11種	
				19種			19種						

注： 和名、学名、配列等は、原則として『河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和3年度生物リスト)』(2021年8月10日更新)に準拠した。

【選定基準】

文化財保護法・・・「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)

〔特天〕特別天然記念物 〔天〕天然記念物

種の保存法・・・『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)』

〔国内〕国内希少野生動植物種

環境省・・・『環境省レッドリスト2020(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)』(環境省,令和2年3月27日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔LP〕絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020南多摩・・・『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)2020年版ー』(東京都環境局自然環境部,令和3年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

神奈川県・・・『神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006』(神奈川県立生命の星・地球博物館,平成18年7月15日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔要〕要注意種 〔注〕注目種 〔減〕減少種 〔希〕希少種

東京都2010南多摩・・・『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)ー2010年版』(東京都環境局自然環境部,平成22年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

今年度(R04)確認された重要種を以下に示す。

1) Pisidium 属

分類が不確定なため分布は不明。関東地方の平地では分断された分布をしている。主に湧水などの砂礫底に生息する。都内では、主に台地下の湧水起源の自然の残っている細流の砂泥底に生息する。

2) サワガニ

本州から九州にかけて分布する。溪流に生息し、多摩地域では河川上流域から中流域に生息する。夏は水から離れて活動することが多い。冬は溪流の大石の下で過ごす。

3) モノサシトンボ

北海道から九州にかけて分布する。平地から丘陵地の樹木に覆われた池沼に生息する。水生植物がわずかに生育する程度でも生息でき、公園や庭園の池、個人宅の庭池などにもよく見られる。成虫は初夏から夏に見られる。

4) オオルリボシヤンマ

北海道から九州にかけて分布する。丘陵地の水生植物の豊富な池沼に生息する。成虫は夏から秋に見られる。

5) ルリボシヤンマ

北海道から四国にかけて分布する。水生植物の豊富な小規模な池沼や水たまりのある湿地に生息する。成虫は夏から秋に見られる。成虫は夏から秋に見られる。

6) コシボソヤンマ

北海道から九州にかけて分布する。平地から丘陵地の林に覆われた河川や水路に生息する。成虫は夏から秋に見られる。

7) ミルンヤンマ

北海道南部から九州にかけて分布する。やや山地性で、丘陵地から低山地の林に覆われた比較的小規模な河川や水路に生息する。成虫は夏から秋に見られる。

8) ヤマサナエ

本州から九州にかけて分布する。流れが緩やかな河川や水路に生息し、特に谷戸の水路など小規模な砂泥底の流れを好む。成虫は春から初夏に見られる。

9) ヒメサナエ

本州から九州にかけて分布する。丘陵地から山地の河川に生息する。多摩川水系では、羽化は大きな支流の中下流で多く観察され、本川の中流域でも見られる。成熟個体や生殖活動は山地溪流で見られる。成虫は初夏から夏に見られる。

10) コサナエ

北海道から本州にかけて分布する。平地から丘陵地の樹木に覆われた池沼や水たまりのある湿地に生息する。区部から多摩地域の平地の確実な現存生息地は皇居のみ。多摩地域の丘陵地には数カ所の生息地が現存している。成虫は春から初夏に見られる。

11) コヤマトンボ

本州から九州にかけて分布する。平地から丘陵地の河川に生息し、川幅が広く砂礫底の河川中流域を好む。成虫は春から夏に見られる。

12) タカネトンボ

北海道から九州にかけて分布する。丘陵地から低山地の樹木に覆われた池沼に生息する。小規模な滞水にも見られ、貯水槽などの人工的な水域にもしばしば生息する。成虫は初夏から秋に見られる。

13) オオアメンボ

本州から九州にかけて分布する。日本産アメンボ科の最大種。平地から丘陵地の緩やかな流れや池沼に生息する。

14) エサキコミズムシ

本州から南西諸島にかけて分布する。水田などの開けた水域の浅い環境を好む。

15) Sigara 属

各種の水域に生息する。神奈川県では、各地から「コミズムシ」として多くの記録があるが、これらは複数種を含んでいるものと考えられる。県下からは、この属としてアサヒナコミズムシ、ヒメコミズムシ、ハラグロコミズムシ、エサキコミズムシ、コミズムシの記録があるが、各種の状況は不明であり、県下の水辺環境から考えて、危機的状況にある種も含まれるものと考えられる。

16) ヤマトクロスジヘビトンボ

本州から南西諸島にかけて分布する。幼虫は水生で、昆虫類などの水生生物を捕えて食べる肉食性。平地から低山地の湧水の見られる流れに生息する。

17) トウホククロセンブリ

本州から九州にかけて分布する。幼虫は水生で、昆虫類などの水生生物を捕えて食べる肉食性。丘陵地の湿地や小規模な池沼に生息する。

18) ヒメガムシ

本州から南西諸島にかけて分布する。平地から丘陵地の池沼や湿地、水田に生息する。

19) ゲンジボタル

本州から九州にかけて分布する。平地から山地の清流または源流域、谷戸に生息する。成虫は梅雨時に出現し、時に灯火にも飛来する。